

東方おにく合同

～肉欲のままに踊り狂え！おにくの狂宴、開幕！～



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

地下にこもり、運動不足な
フランちゃんは、とっても
ふっくらになりました!!

食べてばかりで
動かないからよ…

地下に閉じ込めてた
お姉さまがソレ言うの
おかしくない!?

生搾りランドール
描いた人:あした

何なのこのお腹
何か産まれるの!?
何ヶ月目なの!?

6ヶ月

目を覚ませーツ!!
っていうか羽のアレも
パンパンになってるけど!!
それにも脂肪付くの!?

アタマもパンパン!!

とにかく、フランの健康の為にも
見過ごすわけにはいかない!!

そのおまんじゅうボディ
少し絞ってもらわ!
パチユリー、協力して!!



い、嫌…ッ!!
ちよつとお姉さま!!
こ、これ…ッ



ヒッ!!



搾ら。れ。て。る。ー。ッ!!

ギチギチ

体。を。絞。る。っ。て。い。う。か。!

ギチギチ

グググッ

ググッ

ギチギチ

更に搾って!!

搾って!!

ボゴボゴ!!

搾りまくる!!

ごめん、レミイ
絞り間違えた
ハモ

フ、フライング!?

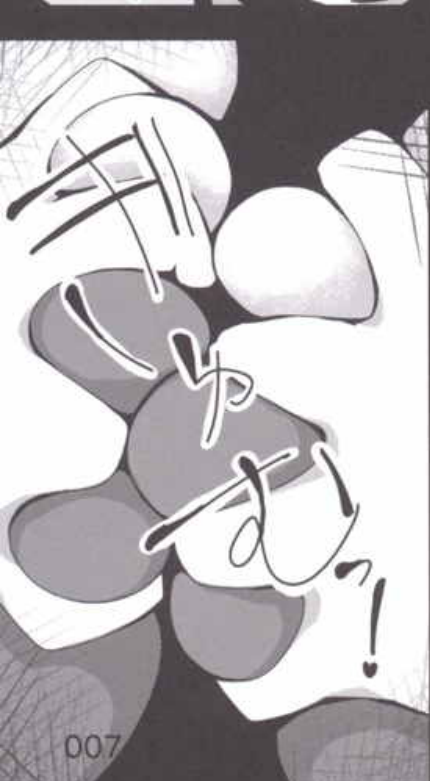
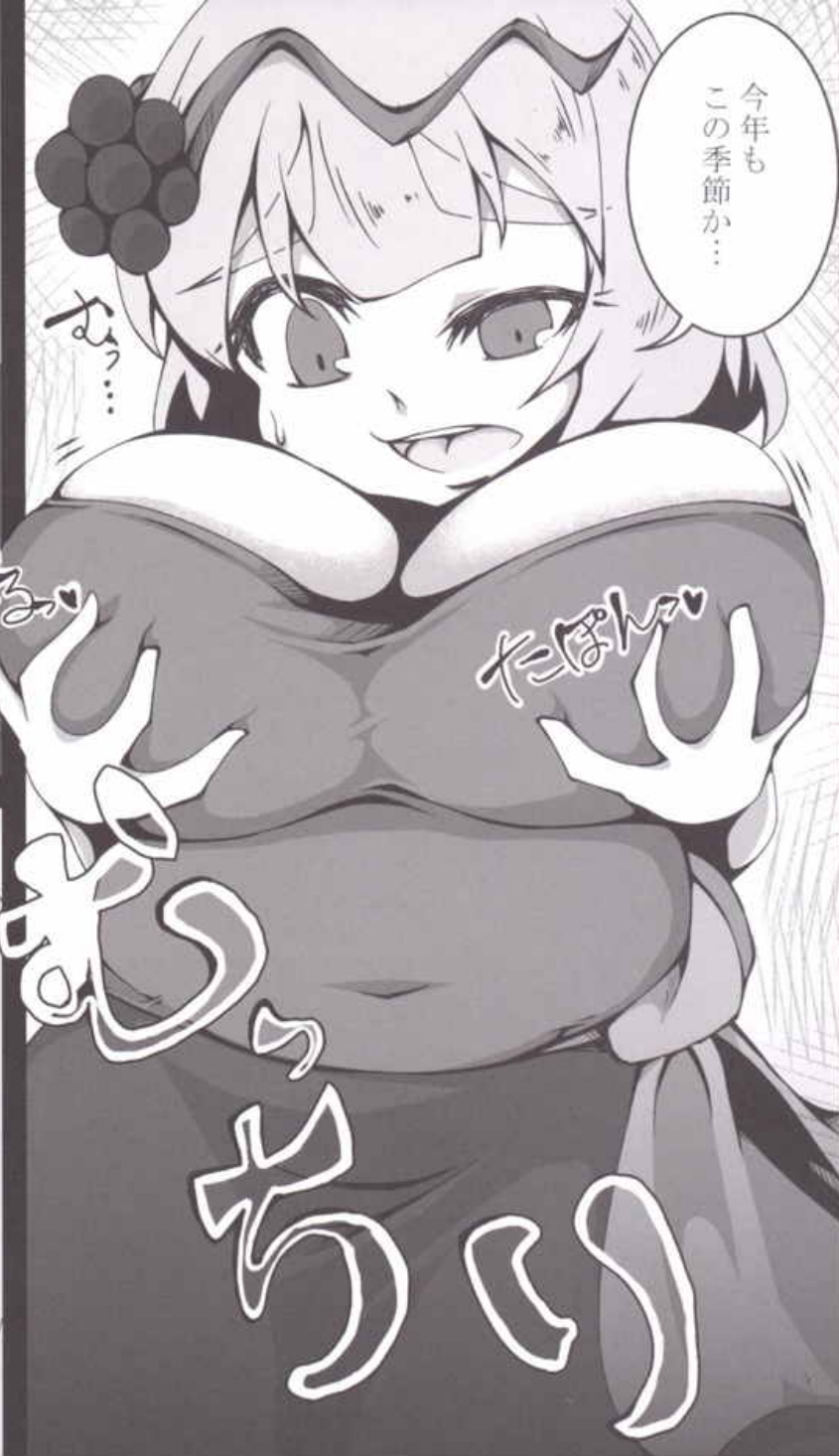
パンパン

ボゴ

ボゴ



*部屋に入ったら
着替之中でした
d(*^o^*)
by 阿々



あらあらあく
こんなところに
居たのね

ひやうっ!?

今年も良い
豊作っぷりねえ

毎年毎年
やめてよお!

何を言うか!!!



あうっ……

七っ……

七っ……



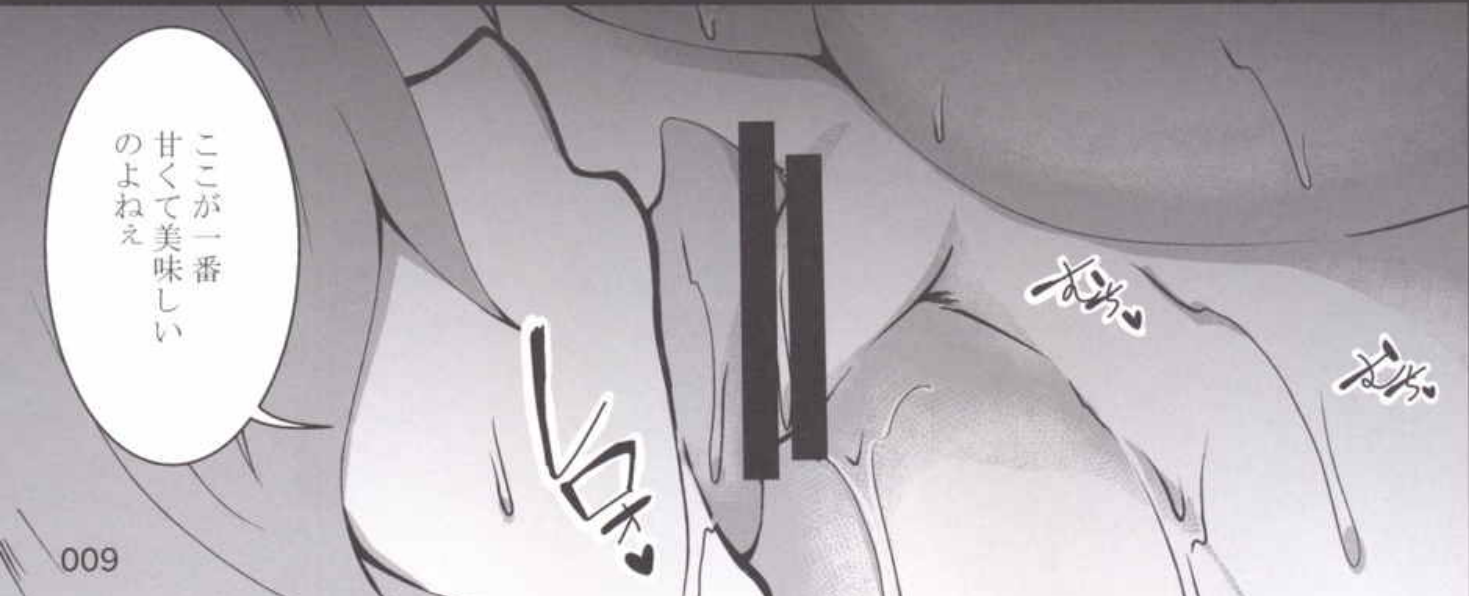
ちが……っ!?



全身から果物の
香りと味を出しといて
もったいないじゃない

んんんんん

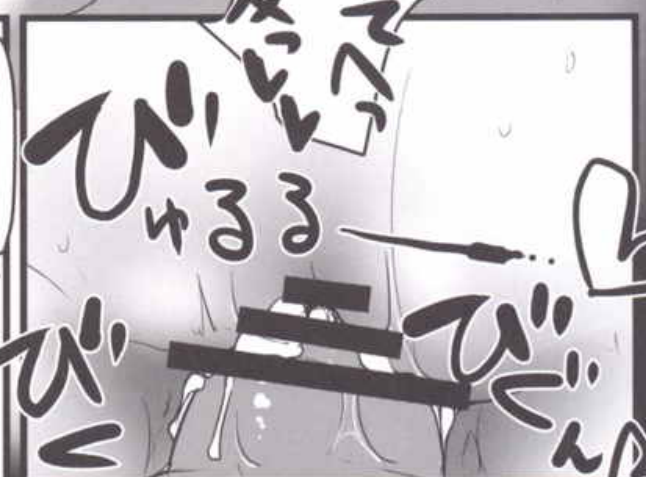
んん……っ



ここが一番
甘くて美味しい
のよねえ









そんなこと
ないわよ？
それよりも
明日からも
体の調節
かんぱりましようね

せいぎー
せいぎーんわたしの
からだへん
じょうい？

わか、たー



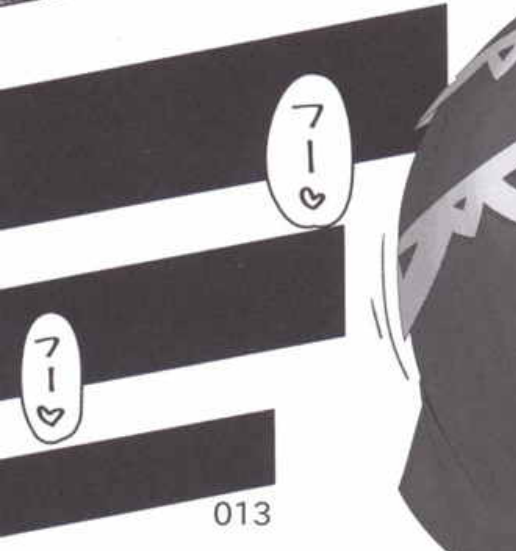
調整 7 日目



調整 5 日目



調整 3 日目

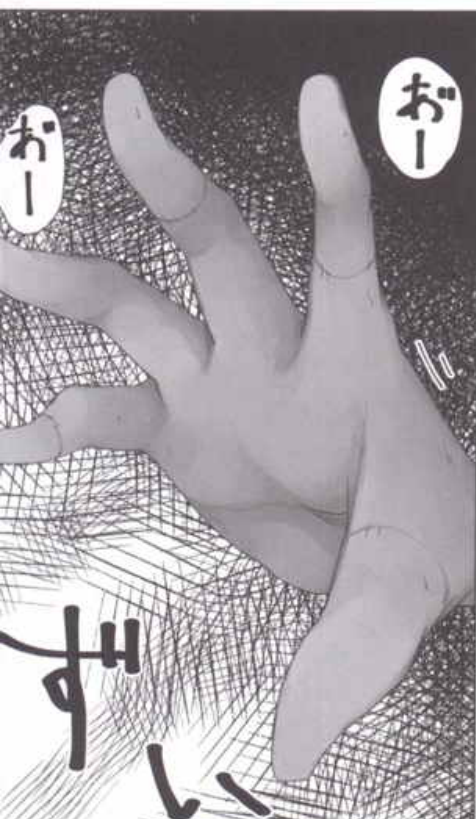


フィー

フィー



調整？日目





御柱

あー

?

アキカ

りか

あ♡

カキカ

あ♡

あ♡

んっ♡

ハァァ♡

ハァァ♡









結局脱いだ。

あのさあ…

シャワーくらい
浴びさせてよ…

えーっ

運動後の
酸っぱい匂いが
いいんですよ！

それに
これからもっと
汗かくじゃないですか



めっちゃ
良い匂いします！！

くさい！！

どっち
なんだろう…



こっちの方の
匂いも嗅いで
みたいですね…！



味の方も
すつごいすっぱい

ちよつとまって…！



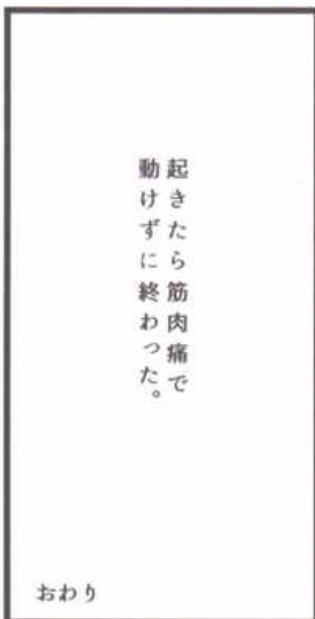
ヤバイ…っ

あうっ

ほんとに
感度よくなってる…







バッドエンドは終わらない

カスピ海ヨヲグルト

西行寺幽々子は困惑した。異変を解決しようと乗り込んだ永遠亭で永琳に完敗し、さも当然のように捕虜にされてしまった。そして「口封じ」を始めようとした彼女にすがりついて妖夢を逃がしてもらったのだ。その代償として提示された条件は、あろうことかセックスであった。

永琳は部屋に入ると、気味悪くも見える敵意のない微笑みを浮かべたまま後ろ手でふすまを閉めて落ち着いた口調で言う。

「ここの方々って攻撃したら立ち上がるか死ぬかじゃない？」

だから、セックスで私のことを知ってもらおうと思ったのよ。

エッチするの、好きでしょ？」

窓もない部屋で距離を詰められる。だが、幽々子とて幻想郷の切り札足り得る大物である。突拍子もない提案に動揺したが、息を整え覚悟を決める。月人のセックスなんてどうせ淡泊そのものこうなったら返り討ちにしてやろうと背に隠した手を開閉し指をストレッチする。

「ほら脱いで、私も脱いであげるから」

慣れた手つきであっさり着物を脱がされるが、捨て身の幽々子は羞恥心に体を縮めることなく逆に堂々と体を見せつけるように立ちほだかる。

紫をも凌ぐ幻想郷一の実りすぎた乳房は重力に負け、濃い桜色をした特注のブラでなんとか支えられていた。見ただけでも柔らか

さが伝わってくる女性の美を存分に湛えた体のライン、正直人に見せたくない下着の各部からはみ出た贅肉。今はなんとか収まっているが、ホックをはずした瞬間暴れ出す淫靡な肉体はまさに幻想郷のヴィーナスであった。

呼吸こそ落ち着いているが、一世一代のセックスに武者震いするもちもちの肌が桃色に染まっていく。

「肝が据わっているのか、蛮勇なのか……もう少し抵抗するものかと思っただけ」

言いながら永琳も服をそつと脱いでしまう。その瞬間、幽々子はあまりの美しさに息を呑んで硬直してしまった。

夜を思わせる漆黒の下着がシミ一つない雪のように白い肌を彩っている。白と黒とのコントラストは、見る者すべてを跪かせ言葉奪う芸術的なまでの美を誇る。一切の装飾がない下着は、自らの肉体への圧倒的な自信を想像させた。

満月のごとき真ん丸な乳房は幽々子からあらゆる面で幻想郷一位の座を奪ってしまった。巨大な胸、微かにくびれた腹、特盛の上半身を支えるべく発達した特大の尻とどっしりとした下半身。不自然なほどに豊満な肉体ではあるが、不思議な調和と圧倒的な迫力をもって幽々子を見下す。

「自分では見慣れたものだけ……あなたにも荷が重いかしら？」

言い返そうとする幽々子に目をつぶった永琳が近づいてくる。少しすぼめた薄めの唇、スツと通った鼻、閉じた目を飾る伏せた扇のような睫毛。なにか言い返してやろうとする心は来るべき接吻に心を奪われてしまった。男女問わず惚れさせる暴力的なまでの美しさが叩きつけられ、幽々子はあっさり唇を許す。

まるで最初からそこにあつたかのように永琳の舌がそつと口内に侵入してくる。猛然と舌を回し責め返そうとするが、上手くないなされ逆に弱いところをこちよこちよと舐められて体を震わせてしまう。

（やだ、なにこれ、まだキスなのに犯されてるみたい……）

静かな部屋に、幽々子の唾液が導き出される音が響く。永琳が慣れた手つきで幽々子の尻を撫で、力強く揉むと甘い吐息が絞り出される。豊満な肉体が震え、二人の股間が別々の衝動に湿り始める。

（お尻揉まれるたびにおまんこまで疼いちやう……ダメよ、頑張らなきゃ）

永琳の動きを真似るようにしてそつと舌を奥まで差し入れ口内を凌辱しようとする幽々子。しかしその動きを察知したかのように永琳は舌を唇で捉え食み始める。薄いながら柔らかい唇に敏感になった舌を優しくしごかれ、棒立ちになってしまう幽々子。

「（あつダメもう無理ベロフェラすぎさるう）ん、ああつ、おう、ん、く、えあつ、らめつ、ひく、ひクウ……ッ！」

濡れそぼった股間をかき混ぜられているような音を口で奏でられ、目をつむり暗闇の中抗いようのない快感に打ちのめされている。上半身から痺れの波がじんわりと流れ、キスだけでセックスの最中のような絶頂をさせられ茫然と余韻を味わう幽々子。

五本指を立て尻から糸を引くように性器まで到達される間も、絶妙な五つのもどかしさにたつぷりとパンティに愛液を握らせてしまう。片方の手で背中を支えられていなければそのまま崩れ落ちそうな幽々子の体たらくに、呆れて永琳が声をかける。

「敵に犯されてる割には素直に感じてるわねえ。それも幻想郷の

名士様たる所以かしら」

挑発したのか、単にからかってきたのかはわからない。だがこの一言で幽々子の闘争心に火がついた。永琳の下着に手を滑り込ませ、たつぷりと滲んでいた愛液でぬるぬると表面を撫で回す。

「んんっ……いいわよ、そうこなくちや」

舌と同じように驚くほどスムーズに永琳の中指が秘部に侵入してくる。細長いそれが縦横無尽にのたうちまわると、幽々子は腰を思わず引いてしまうが永琳の左腕がそれを許さない。

「言っておくけど不感症ではないわよ。楽しませてね」

「んッ！ くっ、ふっ、んあアッ、んんんんっ（やだ、想像以上になんない……でも、ここで主導権を取り返さなきゃ）」

抱きこまれたまま秘部をまさぐられ、何度も顎を跳ね上げて果てそうになる幽々子。肩にかじりつくように頭を預け、指で作った洗濯板で永琳の陰核の包皮を剥き一気に責め立てる。

「くああっ！ クリいつ……ふふ、やるじゃない」

「こつちの勝負で負けるわけにはいかないもの」

「そう、頑張つてね。……このへんかしら」

「んんっ!？」

なんとか我慢できていた快感が急激に増す。的確にGスポットを擦られ、水音がどんどん大きくなっていく。思わず手を止めてしまい永琳に体を預け、左手で思わず口を塞いでしまっていた。

それでもなければ思う存分喘いでイキ散らしてしまいたいからだ。

「そうそう、できる限り粘ってちょうだいね。私はねえ、あなたみたいな子が一生懸命こちらを責めてくるのを感じながらイカせてあげるのが大好きなのよ」

首筋を熱々の舌で舐め上げられ、ゾクゾクが全身を突き抜ける。何度も何度も舐められているうちに、なんとか繰り出してはいる手淫が弱まっていく。秘部が快樂のボルテージを上げていく。永琳の股間からも二チ二チと淫猥な音が鳴り出してはいるものの、幽々子は既に支えられて立たされてはいる有様だった。

「ん、くうッ！ イイ子すぎてちよつと感じちゃうわね……」

ふッ、んう、ほらほら、そんなへっぴり腰で大丈夫なの？

もつとよくしてくれないとイッてあげないわよ」

幻想郷の頂点を決めるといつてもいい手淫合戦が続く。激しい水音と、噛み殺した嬌声が部屋に響く。だが、足元に広がる水たまりの大きさは明らかに違っていた。

「んくッ、うううッ、ううんッ……（お願い、これだけクリ責

めてるんだからイッてえ！）んふうううううッ、あふッ、

くうんッ……んはあッ！ あゝダメつくつくつく！ イッ……

クうッ！」

一気にパンティが濡れる感覚。テクニクでも不覚を取り、潮まで軽く噴かされてしまった。下半身から力が抜けていく。永琳の首を抱くようにすがりつき、耐えきれない衝動を散らすよう体を痙攣させる幽々子。

「あらあら、こんなに濡らしちゃつて。でも、まだイケるわよね？」

体を預けていないと今にも座り込んでしまいそうだった。Gスポットから次々送り込まれる変化に富んだ快感にブルッ、ブルッと体を震わせながら細かく潮を噴いてしまう。パンティの桜色が濃く染まり、幽々子自身の体もすっかり桃色に茹で上がっていた。

（やだ、このままじゃなにもできずに負けちゃうッ……）

幻想郷一を誇っていた乳房も永琳の満月には敵わず押し込まれ、息が苦しい。いつもは下が見られなくて邪魔でしかなかったのだが、今は下を向くと永琳の乳房が大半の面積を占めていた。

「そろそろかしらねえ……」

片手でそれぞれのブラのホックを外してしまふ永琳。支えを失い垂れ下がろうとする幽々子の乳房を永琳のパンパンに張った満月が押しつぶす。体をうりうりと押し付けられるたびに、幽々子の乳房がだらしなくぐんにやりと広げられ息が詰まってしまう。悔しさを覚えながらも絶頂への階段を登らされていると、永琳が耳元に口を近づけて囁いてくる。

「思いつきり、イッちやいなさい」

「あッ……かッ、はッ、ああッ」

こりゆッ、と一際強くGスポットを搔かれた幽々子は全身を食い縛って絶頂していた。両腕をだらりと垂らし、何度も体をつつき張り今までに経験のないタイプの快感に脳髓まで打ち抜かれる。

それは敗北の快感だった。豊満な体を揺らし、全身に広がりゆく熱に体を委ねてしまう。

「見れば見るほどいやらしい体ね……カワイイわ」

クリトリスの周辺を愛液のたっぷりついた指で丁寧に撫でられる。布石を打たれているのは明確であったが、抵抗もできない。

「もっ、もうやめて……イッたからあ……」

「なあに、もう降参しちゃうの？ あなたの友達は、もうちよつ

と粘ってくれたんだけどなあ」

「ま、まさかあなた紫にッー」

驚きと怒りの混じった言葉が快樂に上塗りされてしまう。壁に押し付けられ、下から持ち上げられるように乳房を握り込まれ

ると痺れるような快感が走るのだ。

「嘘お……なによこれえ……」

「おっぱい感じるでしょう？」

持ち上げた乳房をパンツパンツと打ち合わされながら、音に合わせて膝で秘部を圧迫される。指がはつきりとめり込んでしまう柔らかい乳を揉み込まれている間は、膝も秘部をマッサージする。まるで男根で犯されているような感覚に陥り、ありもしない永琳のモノを想像してしまう。

「許してえっ……またイツちやうからあ……」

「じゃ、そのままイツでもらおうかしら」

色素は薄めながら大きめの乳輪にそびえ立つ勃起しきつた立派な乳首をしごかれつつ、布地の上からクリトリスを刺激される。胸の奥から何かこみ上げてくるものを感じる。

「やつやだ、おっぱいがイクツ……はああんっ！」

乳首から飛び出す幾筋もの白い液体。まるで戯れで紫に生やされた男根の絶頂のような感覚が体を突き抜ける。永琳が片乳ずつ根元から搾り上げる度に、幽々子は声を上げて母乳をまき散らしていた。

「嘘っ、母乳っ、絞られっ……」

「私とセックスするっていうのはね、そういうことなのよ？」

あなたはもう、私の子供を孕む準備ができているの。んー、どうせなら紫ちゃんも呼びましようか

永琳が扉を開けて配下の兎だかなんだかを呼んでいる。どこかに囚われているのであろう紫をお披露目するらしい。

壁に背を預けたままズルズルとへたり込む幽々子。一時間にも満たない、それもペツティングだけだというのに散々イカされてしまった。靄のかかった思考の中、目をつぶりどうにかして打開策を考える。

（紫もダメだったみたいね……。従ったふりだったらいいんだけど）

いつそ、なりふり構わず体当たりでもして逃げ出してやろうかとも思った。だが、敵の本拠地からそうやすやすと逃げ出せるはずがない。考えあぐねているうちに、床板を軋ませる音が聞こえてくる。

「やだっ……！」

紫とおぼしきシルエットの股間からは、かつて何度も楽しませてもらった男根が持ち上がっていた。彼女の半陰陽の術は生半可ではなかった。醜悪な芋虫のような見た目で女の視覚を犯し、入れられるとすぐ奥まで届いてしまう巨根である。しかし、今は先端から我慢汁が紐のように垂れ下がっており、精液が詰まっているはずの玉袋もだらしなく垂れ下がっている。彼女もまた敗北したのであろうことが想像された。

「入っていいわよ」

ずいぶん覇気や妖気の薄れた印象のある紫がおおずと入ってくる。幽々子と目が合うと、申し訳なさに視線を外してしまう。幽々子とタメを張れるくらいの豊満な体を貪り尽くされたというのだろうか。

一方で、半萎えだった股間は幽々子の敗北姿を見て持ち上がりつつあった。

「あらまあ、お友達が犯された姿に欲情しちゃったの？　しょうがないわねえ。紫ちゃん、ちよつとオナニーしていいわよ。あなたがどうなったかお友達に教えてあげなさい」

永琳が背後に回って紫の西瓜よりもふた回りは大きな乳房を中央に寄せるようにして搾り上げると、紫は歓喜の悲鳴を上げて母乳を噴き出す。涙を流す紫はこちらをまたすまなそうに一瞥した後、自らの巨根の根元に手をやり、

「幽々子、ごめんなさい……。私、勝てなかったのよ。手でも、69でも先にイカされて、おチンポ見せたらパイフェラで搾り尽くされてえ」

「しつかり見てあげなさいよ、今あなたのために紫が思い出しオナニーしてるんだから」

「八意様のおっぱいで私のだらしのない乳を押しつぶされてミルク噴きながら騎乗位でセックスしていただいたの。……レベルが違うの、上手すぎるのよお、よすぎてたまらないんだからあ」
両手で巨根を握りじゅこじゅこことコキ上げている。背後から爆乳をいように揉まれ、だぶんだぶんと揺れる乳房からはとめどなく母乳がこぼれていた。幽々子ほどではないがむっちりとした太腿を開き、フィナーレへ向けて勢いが増していく。

「萎えチンポシゴかれてイカされて、こうやってパイ揉みでえ、あーっイグツイギたいですう！　もうイッてもいいですよね？」
「ダメよ。ちゃんとお友達と一緒にイカなきや不公平でしょ？」

幽々子さんをイカせてあげてから、びゅーびゅーしまししょうね。ほら、紫ちゃん、早くお尻の穴キレイキレイしてあげなさい」

紫が消息を絶つてから数日しか経っていないというのに、凄ま

じいまでの屈従を示していた。絶望と諦観の中、複雑な表情の紫が迫る。

「幽々子、ごめんね」

「紫っ、目を覚ましッアアアアアアアアアアアアアアア！」

尻穴の中を異物感が駆け巡り、幽々子は尻を押さえて転がってしまう。その下に熱々の肉体が滑り込んできた。紫であった。

「ちよつ……んいいいいいいいっ！　おっぱい揉まないでえ！」

慣れた手つきで乳房を揉み込まれると、胸の奥から快感の塊がせり上がってくる。グツと乳肉を握られ、苦悶の呻きを上げながら母乳を噴射してしまう幽々子。体をよじらせてもがいていると、紫の乳房からも濃厚な母乳が絞り出される。

「暴れないでえ、あー我慢できないっミルクっミルクイキするミルク出しゅうううううううううううううううううううう！　おチンポもイグウッ！」

「まあ、我慢できないわよね。私も混ぜてもらいましようか」
永琳が股間の巨大に過ぎる張り弓を顕現させる。それを誇示するようにピクリと一度跳ね上げた後、幽々子の湿り切った秘部にあてがう。大きな尻にも重く感じられる八意の玉からひり出される精液がいかほどのものか、もはや軽視してみることもすらできなかった。

怒張した赤黒い亀頭が幽々子の本丸に切り込んでいく。蜜をたつぷり浸してもその巨根はキツくてたまらなかった。ズブズブと侵入されると次第に顎が上がり、一気に叩き込まれる感触と共に一際高く母乳を噴き上げる。

...

「うヒツ……う、うくつ、んおうツ！ んくつ無理つ無理無理ん
んんんんツ！ お、ほおおつ……（我慢して逆にイカせてやる
うと思つたのにイ……すぐイツちやつてるよお、あんなの無理
よお）」

ズブンと亀頭がめり込んだ瞬間、永琳はわざと太竿をピクつか
せて幽々子の体を狂おしく痙攣させる。長く、太く、固い。およ
そ女には勝ち目が無いと思わせる永琳の逸物。だが、永琳自身は
こんなモノでも乗りこなせるのかもしれない、と幽々子はぼんや
り思った。

「これいいわね、紫ちゃんのはまた違つて、柔らかくて絡みつ
いてくるわ。とりあえず一回出してあげようかしら」

永琳がためらいなく股間の張り弓をピストンすると、一往復だ
けですべての性感帯が圧されて幽々子は絶頂していた。全てのパ
ラメータを最大にしたような反則級のモノには、絶倫にしてテク
ニシャンの幽々子ですら敵わなかった。

背中には紫の火照つた柔肉、そして永琳の暴虐的なまでに豊か
な肉体に挟みつぶされて幽々子は始終どこかが達していた。永琳
は当然のように一瞬で幽々子の弱点を見つけ、コツコツ小突き回
したかと思えば丁寧に焦らし始める。

「まず一回イキましょ？ 濃くてどろっどろの精液、たっぷり中
に出してあげるわ」

「お願い……。私の負けだから、堪忍してえ……」

「今までで一番気持ちよくなりたいでしょ？ あなたの子宮口を
クイツと持ち上げて、精液注いであげるから。恥ずかしくなん
てないわ。いっぱい叫んで、すっごく気持ちよくなるのよ。紫

ちゃん、おっぱいもつと激しくしてあげなさい。私がイツたら
三人で楽しみましょ」

紫が無言で乳首を激しくしごき、つまみ上げ、複数の手で乳房
を丁寧に揉み上げる。とめどなく噴き上げる母乳に声も追いつか
ない。顔を強引に永琳のほうへ向かされ、優しい眼差しを刻み
込まれる。宣言通り、子宮がクイツと持ち上げられる。奥イキの
絶頂感の中、あれだけデカかったものがさらに膨れ上がる。あま
りの精液量に尿道が先端までびしりと張り詰める感覚すら手に取
るようにわかる。

（紫でもどうにもならなかったのが頷けるわ……。私の、負けね）
幽々子が快楽を受け入れて目をとろかしたのを見ると、永琳は
満足気な顔をして精を放った。

「んくつ……ああくつ、すっごくたくさん出てるわ」
子宮口から油かなにかのように注ぎ込まれるごつてりとした白
濁液に、気のせいか腹部に重みを感じるほどだった。肉体的な力
はそれほどでもなさそうな外見からは想像もしなかった凄まじい
ポンプ力で極太が脈打ち、紫とは格が違う特濃を注ぎ込み叩きつ
ける。

「いぐつ……イツてるう……く、ふはああああああああ
！ こんなものつ、らめ、よお……スゴツ、すぎちゃう、イクの、
終わらない……全身おまんこになつちやうう……」

腹の底から息を出し、胎の奥底まで一撃で満たされてうわ言をひ
り出しながら幽々子は果てる。肛門の辺りに紫のモノが当てられ
る感覚があったが、もうどうでもよかつた。

夜はまだ、始まつたばかりだ。

いつかの明日

仮縫い

「蓮子、ちよつと雰囲気変わったんじゃない？」

「そう？ そんなことないと思うんだけど」

「……気のせいかしら。まあいいわ。さ、今日はどこに連れて行ってってくれるの？」

「今日は駅向こうにできた新しいお店でねー」

と、そんな会話が一月前の事。時間を重ね、メリーの抱いた違和感はその正体を明らかにしていた。

模様付きの磨り硝子を通して、淡く彩色された光が入る。外からの目線を気にすること無く、採光にも不自由しない窓だ。その窓の下に置かれているのは、時代遅れのコイン式星座占い機。そんな喫茶店は、今月何件目か分からない蓮子おすすめのお店だという。

「蓮子、太ったでしょ」

メリーがそんな一言を口に出したのは、丁度注文を終えたときだった。二人ともケーキセットにコーヒーマーという組み合わせで、ケーキはもちろん別の種類。シエアの約束も済ませて、さあ次の話題に移ろうかというとき、メリーは意を決して言ったのだ。

「うん、少しね」

返答は素っ気ないものだった。

「少しって……」

じとり、とメリーの視線が湿気を帯びる。その向かう先は対面

に座る蓮子の胸元、そこで張りつめているシャツだ。
「な、何？ どうしたのよ」

その視線の圧力に、思わずと言った様子でわずかに椅子を引く。けれど、それで逃げられる訳も無い。

「少し、ねえ」

同じ言葉を繰り返すメリー。視線は、明らかに丸くなった蓮子の顔と、テーブルの上で唯一見える胸とを繰り返して往復していた。
「それにしても、ずいぶんと窮屈そうだけど」

口に出す。胸の辺りのボタンは、ボタンホールにぎりぎり引つかかる程度にしか留められていない。皺も顕著で、急成長を遂げた胸を強調していた。

もちろん、メリーは成長したのが胸だけではないと知っている。スカートに乗る肉はここまでの道のりで確認済みだ。下腹を受け止めるスカートは半ば無理矢理履いていて、歩きながら何度もウエストを直していた。今はその様子が無いところを見ると、多分座ったときにホックをはずしてしまっただろう。もちろん、少し太ったくらいでそうはならない。

「ああ、うん、そうね。そろそろ新調しないといけないと思ってたの」

目をそらして、蓮子は星座占いをいじり始める。

「……まあ、それでいいならそれでもいいけど」

「そんな事は無いわ。痩せようとは思ってるもの」

「本当に？」

その割には、今日もこうしてケーキを食べに出かけている。疑惑の視線を、蓮子は半ば吹っ切れたように受け止めた。

「そうよ。今日ここに来たのだから、運動するためだもの！」

「……………なるほどね」

この店は駅からそれなりに歩く。行って帰ればちよつとした散歩くらいにはなるだろう。

「願いましたはケーキ引く移動つてわけ。計算してあげる？」

そろばんをはじく動作に、苦笑いで首を横に振る蓮子。様子を見るに、結果は分かっているのだろう。

「遠慮しとく。でも、まず運動を習慣づけるのが大事つて言うじやない？」

「余分なカロリーも習慣付いてちや意味ないじやない。ケーキがないと運動しないなんて」

人参をぶら下げられた馬みたい。いや、目の前の人参を食べるぶんだけなお悪い。無くなつた人参は、その身にしっかりと、脂肪として定着しているのだから。

「そんな事無いわ。美味しいものならなんでもこいよ」

「なお悪い」

どうやら目の前の友人に痩せる気はあまりないようだ。メリーは嘆息する。

「まあまあ。ほら、色んな店回れるつて利点があるじやない？」

気に入つたら、こういう風にメリーも連れて来れるしさ」

「それはそうだけど…………」

なんだか、食べるための言い訳に使われてるような気も。でも、その言葉には確かに、と思うところもある。なんだかんだ言つて、蓮子との茶店めぐりは楽しいのだ。…………少し数が多すぎるのには、辟易するけれど。

「…………にしても、急に増えたわよね」

言わずもがな、体重の話だ。少なくとも、一ヶ月前はまだ普通と言つていい体型だった。それに、メリーの見込みでは蓮子は太りやすい体質という訳ではない。

そんな疑問を口に出すと、彼女は気まずそうに、瞳だけを動かして視線をずらす。

「…………いや、それはほら、食べ過ぎ…………かな？　メリーを連れてくる前の下見でね、やつぱり、一品だけじゃ分からないつて気づいたのよ。だから、ね？」

メリーは呆れて頬杖をつく。手のひらで潰されて、頬がぐにゅりと形を変える。

「それで、いつもはいくつ食べてるの？　それともホール？」

「ホールケーキじゃ種類が食べれないじやない。大体…………五種類くらい？　判断つかないときはもうちよつと頂いたりもするけど」

「なるほどねえ」

それならここまで太るのも納得だ。そんな量を食べておいて、尋ねて返つてきたのが少しは太つた、という返事だったのだから呆れる。呆れついでになんだかちよつと目眩までして、軽く目を閉じて息を吐く。

「それだけ食べてたなら、一切れじゃ足りないんじゃない？」

確か、蓮子が頼んでいたのはスフレチーズケーキだった。たつぷりのホイップもスポンジも無いので、お腹に溜まりにくいケーキだ。お腹に溜まるケーキというのもそれはそれで嫌だと思つてもかく、蓮子にはそれ一つでは足りないだろうとメリーは考えた。

「……いいの？ だって、メリーは一つしか食べないんでしょう？」

迷う辺りに本音が透けてみえる。でもまあ、それは言わないでおくのが花だろう。

丁度、注文を運ぶ店員がやってくるのを目の端にとらえる。

「私はそれで十分だから」

そう言うと、蓮子はぱあつと表情を輝かせて、注文を置きにきた店員を呼び止めた。

「じゃあ、遠慮なく。すみません、この八色のチーズケーキ追加で、お願いします」

コーヒーと二つのケーキを置いて、注文をとって店員が立ち去る。

今蓮子が頼んだのは、この店の売りらしいチーズケーキを、全種類合わせてホールの形に並べたもの。つまりほとんどホールケーキだ。ベリーソースや柚子入りのもの等があつて、メリーも気に入っていたメニューの一つだった。

「やつぱりこれは食べとかなないと、って思ってたのよね。一人で来たときは売り切れちゃってたし」

ごきげんな蓮子。コーヒーに二つ目の角砂糖を入れながら、メリーは応える。

「それで、痩せる気は結局無いわけね」

「それを言われると辛いけど」

「どうせなら最初から頼めばよかったじゃない」

一言ことわってくれれば、蓮子が一人で多く食べる分には構わない。そうすれば、今頃はあの八色がテーブルの上に運ばれてい

ただらうに。

「でも、いざ食べるとなるとメリーだって食べたくなるでしょ？」

「……まあね」

正直、蓮子が頼むのなら御相伴にあずかろうと思っていた。さつき一つで十分と言った手前、さすがに少しバツが悪い。

「だから遠慮してたんだけど。……だってさ」

にやり、と蓮子が意地悪く笑う。なんだか嫌な予感。

「メリーも相当増えたでしょ、体重」

ほうと息を吐き、意識して笑顔を浮かべる。

「まさか、そんな訳無いじゃない」

そんなものは蓮子の気のせいだ、とばかりに言い放った。

「そう？ その割に……」

蓮子の視線がメリーの体をなぞる。思わず自分を抱くようにして、その視線から逃れようとしてしまう。

「何を言い出すのよ。ちよつと、無理があると思うけど？」

「うん。いくらゆったり気味の服でも、さすがにその格好でそれは無理があると思う」

指摘されたのは服の事だ。

「……ずいぶんパツパツだなあと思ってたはいたんだけど、まさかメリー、本当に気づいてないの？」

と、本気で心配そうな蓮子。メリーは、今度ははあ、と呆れたような、諦めたような息をもらした。

「……そんな訳ないじゃない」

...

「だよね。お腹とか出ちゃってたし」

にやにやと、仕返しとばかりに蓮子は指摘してくる。メリーの着ているものはゆつたりとしてデザインなのだが、サイズの合っていない今はその隠蔽効果も見込めない。体のラインは浮かび上がっている。お腹にかなり肉が付いたことも、張り付いたお尻が大きくなっているのも一目瞭然だった。この店まで歩いてくる途中、メリーが蓮子の増量っぷりに気づいたように、蓮子もメリーの身体を見ていたのだろう。

彼女の視線に思わず意識して、メリーは自分のお腹に手を当てる。服越しに、近ごろは馴染み深いものになってしまった脂肪を触って、さすがに落ち込んだ。

「分かったってばあ。謝るから許してよ」

「別にいいわよ。私も太っちゃったのは本当だし」

言いながら、にやにや笑いは収まらない。蓮子だって太ったくせにと思うけれど、それをもう一度言ったところで始まらない。

「勘弁して……」

「あはは、ごめんごめん。でもおあいこでしょ？」

「悪かったってば……。けど、ほら、私達まずいでしょ。その、」

「ダイエツト？」

そういうこと、とメリーは頷く。

「確かにねえ……」

蓮子はテーブルの下で自分のお腹をつまんだようだ。もしかすると掴めるくらいはあるかもしれない。

「ほら」

メリーは二の腕を持ち上げて揺らしてみせる。すると、つられ

てたぶたと肉が揺れた。二人は同じタイミングで、重たい息を吐く。

「まあ、そうね……追々考えないと」

「そんな悠長でいいの？」

メリーの焦りに比べて、蓮子はどこか他人事だ。まずいと思っていないわけではないのだろうが、どうにもやる気が感じられない。

「でも、今日は頼んじやったじゃない？ チーズケーキ」

「それはそうだけど……」

口ごもる。

「じゃあメリーはいらないのね」

「そうは言っていない。二人で分ければカロリーは半分よ」

蓮子は苦笑を返す。

「おいしさは二倍？」

「そうなるわね。量も半分だけど」

顔を合わせてニヤリと笑う。共犯者めいた笑みだった。

「それじゃあ、まあ、定番で申し訳無いけど」

「ええ、そうね。口伝に過ぎてて飽き飽きするけど」

と、二人は示し合わせて、タイミングをはかる。

「「ダイエツトは明日から」」

見事に一致した文句に、クスクスと控えめに笑い声をあげた。ケーキが運ばれてくる。色とりどりの三角が並べられ、円を作ったホールケーキ。合い言葉通り、二人は遠慮する事無く、綺麗にそれを食べきる。

その『明日』がいつ来るのかは、彼女達には分からなかった。

クソデブビッチお隣のデブ専いじめw

lapiness

ねえ、その君、君だよ？この合同誌読んでセンズリこいてる君っ♡

にやははは 今更らんぼ隠してもおせーつてのwww

あーあ…せーえきびゆるびゆる出しながら何間抜けな顔してあたいのこと見てんのさ？

てか、あのさ、あんたさ…こーゆー合同誌おかずにしながらセンズリこいてるってことはデブ専だよ？違う？ん？

は？違うって？何が違うのさ、ああん？ポテ腹をおかずにしてたつて？

なーんもポテ腹もデブもおんなじだべさwww腹めつちや出てる女の子にこーふんすんらろ？違う？

はい？デブとポテ腹は違うって？生意気だねwwwあんたwww

ふーん、じゃああたいたいな100kgオーバーの女の子の体にはこーふんしないんだね？

あつそ。

じゃああたいがなにやっても勃起すんなよ？あたいはこーふんしないんだろ？

は？やめろつて？何言つてんだよ？こーふんしないつてあんたが言つたんだから別にいーじやん。

はーい、今から君がデブ専じゃないかどーかチェックしまーすwwwほら、あたいの言うこと聞けつー押しつぶすぞこらつ

んじや手を出してえ♡ぬふふ♡んじや、はいっ♡

むにゆううっ！

にゆふふ♡はい、おデブのお腹だぞお？むつちむちのぼよんぼよん100cmのオーバーのぜ、い、に、くっ♡

どう？どう？

そーだよねー♡あんたはおデブちゃん嫌いだからお腹なんか触つたら気持ち悪いよね♡勃起なんかするわけないよね？

んじやさ…なーんで股間押さえて腰引いてるのかなあ？んん？

おてて避けてみようかあ♡勃起してないならおてて避けてもいいよね？ん？どうしたのかなあ？もしかして…勃起…

したのかなあ？おデブのぼよんぼよんのお、な、か…触つて勃起なんかしてないよね？にやははっ♡

はいはい、おてて避けましょ♡こらつー逆らうな！手をどけろつて言つてんのっーうりやつ！

んん？どーしてズボンがばつっばつっんになつてるのにかやあ？これつておちんちんじやないのかなあ？勃起して

びんびんになつちやつたおちんちんじやないかやあ？

どしてこーなつちやつたのかなあ？あたいはおっぱいやおしりなんか触らせてないよ？おなかだよ？おデブのお、な、

か♡ふつーは勃起なんかしないのにねえww

ふーん、おしっこしたくてちんちん硬くなつただけなんだあ…んじやもーつといたずらしていいよね？もつとおなか

触らせてても別になーんともないよね？あたいはおなかさわされるの気持ちいいから、あんたのおててでずーつと

さわさわしてよーつと♡

にゆふふ♡あー、気持ちいい♡おなかでなでされると猫は気持ちいいんだよ♡にゆふふ♡

ん？どーしたの？さつきからなんらんぼびくびくして顔真っ赤だけど？どーみてもおしっこ我慢してる顔じやないなあ？

なーんかエッチないたずらされて切なくなつてる子犬ちゃんみたいだねぞお？

もしかして…こーふんしてるのにかやあ？こーふんしてるならちやーんと言つてくれたら処理してあ、げ、る、ぞ♡

ふーん、違うの…こーふんしてるんじやないんだね？じゃあもつといじめてもいいよね？

ほら、ちよつとしやがんで、あたいのおなかの目の前にあなたの顔が来るよーにつと♡むふふ♡♡どう？目の前におデブち

やんのだつぶんだつぶんのむつちむちおなかがあるとすこいでしょ♡大迫力♪

ほらほらつ♡スカートの上におなかのお肉、だつぶーんつて乗つかつてるでしょ♡かわいいでしょ♡

は？かわいくない？ふーん、そーゆーこと言うんだあ…んじや…

むぎゅーつ！

あんたのその生意気な口をあたいのお腹で潰してやるっ♡にやははっ♡窒息しちゃええ♡

ぎやははっ♡顔がぜんぶあたいのお腹に埋まっちゃつて本当に窒息してるよwww

でもさあ…さつきよりらんぼがもーつとひどく勃起してるのはなんでかなあ？さつきより一回りおつきくなくてビクンビクンつてしてるぞお？デブが嫌いならこんなことされたらちんぼ萎えちゃうのになあ？おかしいなあ？もう素直にデブ専

ですーつて言つたら？

は？まだ抵抗するの？ふーん…んじや…デブが嫌いならデブのおっぱいなんか見たら吐いちやうよねえwww

なーんか熱くなつてきたし、上脱いじやおうつと♡それっ♡ぬぎぬぎ♡

だばおおおんっ！

あー窮屈だつた♡あたいは、おっぱい馬鹿でかいからワンピースがきつくて窮屈なんだよねえ♡

おっぱい丸出しきもちいい♡ん？なに見てんの？別にあなたにおっぱい見られても気にならないけど、あなたはあたいの

だらしないいおっぱい見て気持ち悪くないのお？おっぱい大きすぎてお腹の上に乗つかつておっぱいだぞお？頭よりお

きいぞお♡

ほら…手をだしてこーん？あれ？今度は素直に手を出すんだね♡んじや…両手をこーやつて…うりやつ♡

むにゆうううんっ！

あー、よしよし…おっぱいも揉みまくっていいから…ちよつと落ち着いて…にやはっ！そ、そんなに乱暴におっぱい揉んだらだめえ♥

にやはああ♥♥おっぱい力いっぱいわしづかみでお腹にちんぽお♥♥♥そ、そんなにやったらあたいまで変に…にやはああ♥♥

ちよ…や、やだっ！おへそにちんぽがつつんがつつんってあたって…し、子宮に響くっ！にやはああ♥♥♥

お”お”お”お”ツ♥♥♥へ、へソ♥♥♥おへそまんこ♥♥♥へソマンコいつちやう♥♥♥

も、もーちよつとゆっくり…にやああ♥♥♥そ、そんなおっぱいわしづかみして振り回したら…にゅうう

うう♥♥♥お、おっぱい張ってくるうう♥♥♥あ、あたいまで感じまくって母乳溜まって…んぎゅううう♥♥♥

おっぱいあちゅいいい♥♥♥

ミルク噴いちやううう♥♥♥だめえ♥♥♥ぶちまけちやう♥♥♥母乳ぶちまけてみるくまみれになりゅうう♥♥♥

♥♥♥

あ”あ”あ”あ”あああ♥♥♥おへそ来るうう♥♥♥ちんぽでおへそ犯されてへソアクメ決まっちや

ううう♥♥♥へソアクメガンギマリしちやううう♥♥♥んん♥♥♥

お”お”っ♥♥♥あ”あ”あああ♥♥♥んん♥♥♥イグ♥♥♥イグ♥♥♥イグ♥♥♥ううう♥♥♥い、いよお♥♥♥

♥♥♥い、一緒にイコ♥♥♥あんたもおおへそにせしぶちまけて飛んじやおお♥♥♥

によほおおおおお♥♥♥

どびゅうううう♥♥♥びゆるるる♥♥♥

ぶしゅあああ♥♥♥

お”お”お”お”あ、あだが…くるくるすりゅう…ぎぼちよすぎで…あだが…によほおおお♥♥♥

ばたーん…

…

はあ…は…あ…ま、まだあたまチカチカする…すんげーアクメ決まったあ…♥♥おっぱいもミルクゼーんぶぶちまけて…ふひい♥

て…てか…あ、あいつどんだけせし出るんだよ…人のへソにせし馬鹿みたいにぶちまけて部屋中ミルクとせしまみれ…うへえ…臭い…

あ…てかあいつどいつた…？ん？あ、あそこにひっくり返って…ありやりや気絶してるわ…

そりやそーだわな…あんだけちんぽ限界まで勃起して大爆発してりや失神するのも無理ないわあ…

ま、寝かしておいてやるか…

その間にあたいは…体洗って失礼しますかねえwww

とりあえずこいつはあたいの性的なベツトってことにしてwww

にやはwww大取極だにやあ♥

と…こ…ろ…で♥

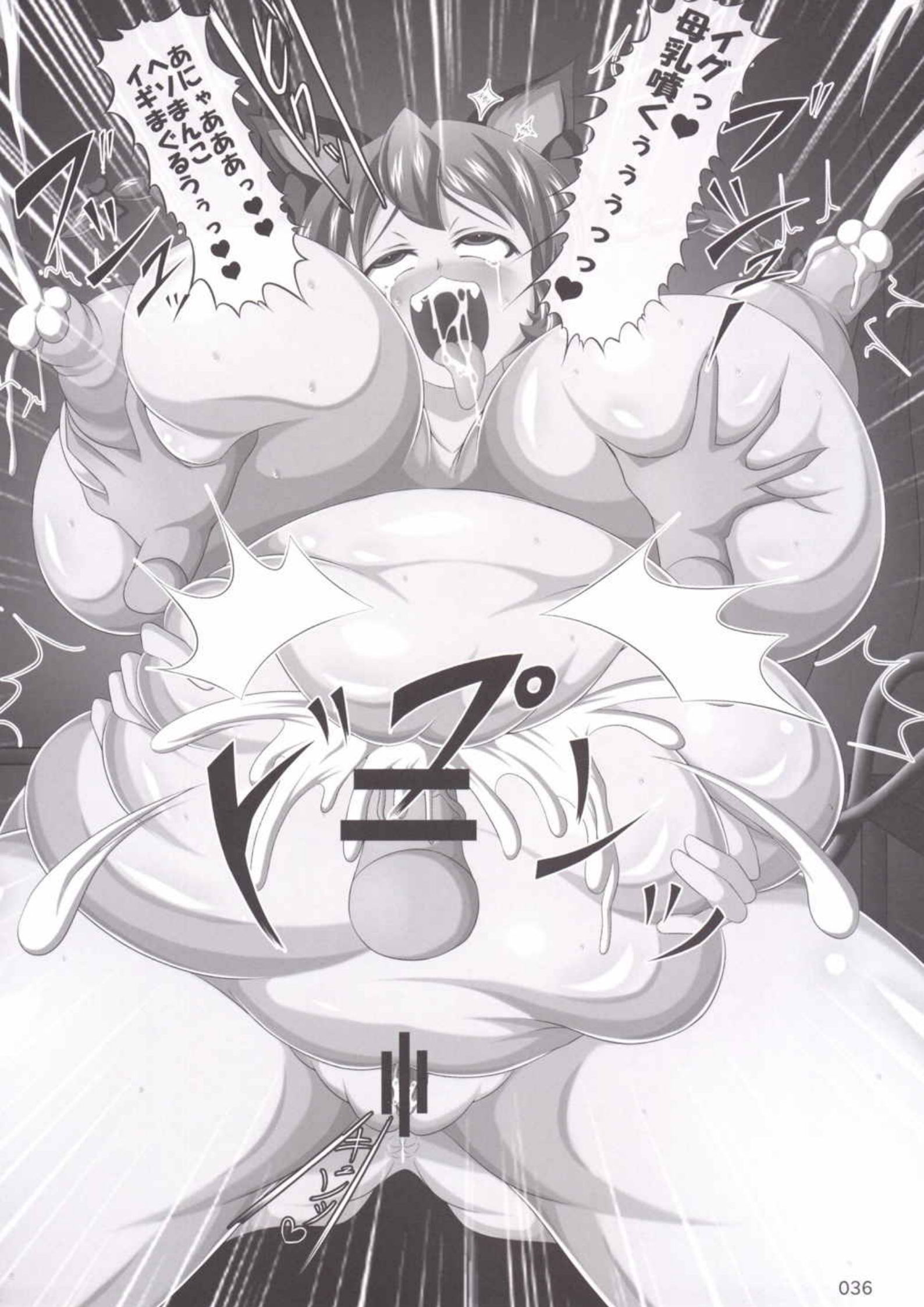
そこでこの合同誌読んでちんぽおつたててる君？きみだよ？

今度はあなたのおうちに遊びにい…く…ね♥せし溜めて待ってるんだぞ？

おりんちゃんがつぶりかわいがってあげるからね♥

バイバイ♥♥♥

おしまい



あしゅああああ
あしゅああああ
あしゅああああ

イグッ
母乳噴

あしゅああああ

あしゅああああ

白黒付かない感情

棒の人

「四季様、書類持ってきましたよ」

幻想郷にある閻魔達の執務室。

その中の一室である四季映姫・ヤマザナドゥの執務室に、小野塚小町は書類片手にやってきていた。

「小町ですか、そこに置いておいて下さい」

「わかりました」

書類の山に向かいつつ、映姫は小町の方を振り返りすらせず背を向けたまま指示を出す。

小町はやれやれと言った感じで書類を指定された場所に置く。と映姫にお邪魔しましたと声をかけてから部屋を出ようとする。その時、ふと小町は映姫の服装に違和感を覚えた。

「……あれ？四季様ズボンにしたんですね？」

「……ええ、最近肌寒くなってきましたので」

普段スカート一筋だったはずの映姫は、なぜか珍しくズボンを履いている。

別段これだけなら何か問題があるわけでは無いのだが、小町はなぜかそれに引つかかったのだ。

「へえ……なんだか常にスカートのイメージだったんでなんだから新鮮ですよ」

「別に貴方に褒めて貰うために履いてる訳では無いですが、まあありがとうございます」

相変わらず書類に向かい合ったままの映姫に、小町はこれまた違和感を感じた。

映姫はお礼を言う時必ず相手の方を向いていたからである。あの礼節に無駄に細かい映姫が小町の方に顔を向けないのは普通ではあり得ない。

それだけ忙しいとも取れるが、それだけじゃないと小町は短くない付き合いから感じ取った。

「……四季様、ちよつとこつち向いて貰っても良いですか？」

「……なぜです？」

「いえ、少し気になった物で」

「ならいいでしょう別に」

いつになくつつけんどんな態度の映姫。

ここまであからさまだと逆に小町は興味が俄然沸く。

「何かあるんですか？」

「何もありませんよ」

「なら良いじゃ有りませんか、ちよつとぐらい」

「いえ、今忙しいのでそんな暇はありません」

「そう遠慮しないで」

「してません」

小町はそう映姫に声をかけつつ横から映姫の顔を覗こうとする。が、高く積まれた書類達が壁のように立ちはだかり、どうやっても覗けない。

しびれを切らした小町が書類と映姫の距離を能力でいじると、ようやく隙間が出来た。

だが、映姫はそれでも小町の方を見ようとしない。

「なんですかそれ!! どれだけあたいの顔見たくないんですか!?!」
「別にそういうわけではありませんが、こっちも色々あるんです」

そうやって顔を書類で隠す映姫。
小町はそれを見てなにやらぐずついた声を上げる。

「そ、そんな……そんなことまで言……あたいの事嫌いなったんですね!」
「そ、そういうわけではありません!!」

今にも泣き出しそうな小町の声に流石の映姫も振り返る。
が、そこに居たのはにこやかに笑う小町であった。

「こ、小町!! だましましたね!?!」
「素直じゃ無い四季様が悪いんです」

悪びれる様子すら無い小町は、ようやく見えた映姫の顔をまじまじと見つめる。

一見普段と特段変わった様子は見当たらないが、そこは部下と上司というべきだろうか……

小町は映姫の顔が普段よりかなりぱんぱんに膨らんでいることが分かった。

「四季様……顔ぱんぱんですよ?」
「別に……ちよつとした事です」

そうやって再び顔をそらす映姫。

だが……小町は見逃さなかった。

映姫が顔を動かしたとき、顎の辺りに肉の段差が出来た事を。

「……四季様」
「……なんです?」
「太りました?」

剛速球を投げ込む小町に、映姫の体がピクンと震える。

「……少し」

「いや、それどう見ても少しじゃ無いですよ?」

「私が少しだと言え少しです」

「なんですかその暴論……」

小町は映姫の方にこつそり近寄ると、思い切って映姫の体を掴む。

その瞬間、以前ちよつとしたいたずらで触ったときとは全く違う感触が返ってきた。

服で無理矢理に閉じ込めているのだろう……服の下には柔らかな脂肪がみっちり詰まった感覚があり、少しでもいじれば服がはじけ飛びそうだ。

小町はその感触に驚き、慌てて嫌がる映姫を押さえつけつつ服をはぎ取る。

その下から出てきたのは丸々と肥え太った映姫の体であった。まるで鏡餅を思わせるような腹に手で掴みきれないほど膨れ上がった胸。

ズボンに無理矢理押し込まれていた足は大根足というにも太く脂肪だらけの腕はフリルで巧妙に隠されていた。

髪の毛で隠れていた頬肉は以前映姫が持っていたすらつとした印象を粉々に打ち砕く破壊力である。

矯正服という枷から外れた映姫の体はぶるんぶるんと全身を揺らし、その存在感を強くアピールするのだった。

「……」

「ちよ、ちよっと！無言で離れるのはやめてください！！」

露骨に引いて離れていく小町を涙目の顔で呼び止める映姫。

「いや……四季様これやばいですって。とかどうかどうやってこの体をこの服に収めてるんです？」

小町ははぎ取った服を持ちながら映姫にそんな質問をする。

「……河童の技術ですよ。顎周り以外はこれでびっちりと圧縮してくれるので……」

「顎周りは布で覆うわけには行かないと言うことですか……それにしたって……」

「な、なんですか！？」

じろじろと自分を見つめて来る小町にうろたえる映姫。

「四季様……今体重の程は？」

「ぐっ……多分40貫程です」

「40貫って……あたゝい二人分以上じゃないですか！それは流石に太りすぎですよ！！」

「うう……分かつてはいますが……運動をする時間が無くて……」

小町の言葉に流石に落ち込む映姫。

因みに1貫およそ3.75kgであり、換算すると大体150kgである。

しかもどうやら映姫は自分の体重をきちんと量ってないらしく、この数字よりも重い可能性があるのだ。

「いや、時間欲しいならあの趣味の説教やめればいいだけじゃ……」

「私が皆を導かず誰が導くのですか！？」

「いや誰でもいいでしょう……」

小町の言葉に対して普段の冷静さがまるで感じられない程感情を振りまわす映姫。

「大体こうなったのは小町、貴方の責任なんですからね！？」

「ええ！？なんでそうなるんです！？」

「貴方が真面目に仕事をこなさないから上司である私の所に色々な書類がやってくるんですよ！！！！御陰で食事の時間はめちゃくちゃになるわ手軽に済ませるから栄養が偏るわストレスで食事が増えるわで……」

「それは流石に言いがかりですよ！！」

八つ当たりにも近い言葉を放つ映姫にそれは言いがかりだと言う小町。

だが映姫の方は怒りからか手にした悔悟の棒で小町をびしっと指し示すところ宣言した。

「いいえ！この際だからはっきり言わせてもらいます！小町、貴方は少々不真面目が過ぎる！！大体です……」

やぶ蛇だったかと小町は後悔するが時既に遅し。

映姫お得意の長つたらしい説教が始まってしまった。

最初こそシユンとして話を聞いていた小町だが、段々と理不尽なお小言に苛立ちを覚えた。

ちらりと映姫の顔をうかがうと、どうやら説教に集中しすぎて小町の方をまともに見ていない様だ。

これ幸いと小町はこっそり映姫の背後に回ると、映姫の未だ出しゃばりな腹をむんずと揉む。

「ひゃっ……！？な、なにをするんです小町！！」

「四季様のお腹はこんなにも柔らかいのになんで四季様の頭はこんなにも固いんです？」

「お、お腹と頭の固さは関係無いでしょう!？」

「そうですねえ……?にしても柔らかくていいですねえこれぐにぐにと映姫の腹を揉みしだく小町。やがてその手は徐々に上の方へと登っていく。

「やつ……!こ、小町これ以上やったら怒りますよ!？」

「おやおや……口ではそう言ってますけどここ少し堅くなつてますよ?これも頭だからですかね?」

そう言つて映姫の乳頭……乳首を摘む小町。

その度に映姫の体が大きく跳ねる。

普段の仕返しか、それとも映姫の反応が楽しいのか……小町は映姫の体をあちこち揉む。

どこもかしこも脂肪で覆われ、手がズブズブと沈み込む様はまるでつきたての餅その物である。

やがて映姫の声に嬌声が混ざり始めた頃、小町の右手が映姫の股間に這う。

「こ、小町!そこは……」

「そこは……なんですか?」

「そこはダメですつて……!……あつっつっつっつ♥♥♥」

小町の右手が映姫の秘所に入り込んだ瞬間、映姫の体が今まで以上に跳ねる。

「敏感ですなえ四季様……ここもお肉が大量に付いてて揉みごたえ十分ですよ?」

「そ……そんなこと……いわれてもおお♥」

蕩けた表情をして体を小刻みに震わせる映姫。

小町はにやりと笑うと、左手で乳首を摘みながら右手で更に秘所の奥を目指し肉を掻き分けていく。

その度に映姫の体がまるで電撃を受けてるかのよう跳ね回りその度に体中の贅肉が揺れる。

やがて震えが早くなつてきた頃、小町が映姫の豆と苺を同時につまみ上げた。

「やつ……ふあ……ああああああああ♥♥♥♥♥」

大きく背を反らし、そのままぐつたりと小町の腕の中に崩れ落ちる映姫。

満足げな表情の小町は映姫の体を椅子に座らせると、己の右手に付いた映姫の愛液を手頃な布で拭き取る。

「ふっ……所詮四季様も女性つて事だね……」

やりとげた表情で額を手で擦る小町。

その後ろにいつの間にか復活した映姫が近寄っているのを小町は気付くことが出来なかった。

「スパアアアアアアアアン!!!」

「きゃん!」

悔悟の棒を頭上から真つ直ぐ振り落とされ、小気味の良い音が辺りに響く。

小町はイタタタ……と呟きながら両手で頭を抱えてその場にうずくまる。

「ふ、ふふ……散々やつてくれましたね小町……」

「し、四季様……ダウンしたはずじゃ……」

「あの程度で気を失うほど私はヤワではありません」

「そ、そうですか！流石四季様！お強いですねえ！！ではあたいはこれで……」
「逃がすと思えますか？」

そそくさとその場から逃げようとする小町の肩をがっしりと掴みにこやかに笑う映姫。

「今度という今度は許しませんよ！！いいですか！？大体上司の腹を揉み、あまつさえ胸に手をかけるとは言語道断！！貴方に苛立ちをぶつけたのは悪いと思いますがそもそもは貴方の勤務態度に対して私の苛立ちが募った結果でもあるのですよ！？」

それだというのに貴方はまるで反省する事無く、あまつさえ

「ひいひいん……」

小町を正座させてガミガミと叱る映姫。

そこから始まった説教は今までの最長記録を更新し、8時間近い大記録だったという。

白黒付かない感情FIN



挿絵:Anchors

「最近、守矢神社に参拝客を取られて賽銭が減った？」

元々ここの賽銭箱、減るほど賽銭なんて投げ込まれてなかったでしように」

口元を扇で隠しながらもからからと大笑いする紫の顔に、霊夢は踵がめり込むほど強く蹴りを入れた。

ファット・ファイト・フォー

挿絵・黒風ノ空 文・守島裕輝

ちやぶ台の上に置かれたテレビジョンなる箱に映像が映る。

映し出されているのは式を乗せたカラスの視界で、隣で座る紫が使役するものだ。河童や天狗達の集落を視界の端に写しながら妖怪の山の傾斜にそって高度を上げていくと、頂上の守矢神社にまで辿り着く。

「やつぱりこの人の多さは異常だと思っただけど……あの台の上にいるの、早苗、よ、ねえ？」

霊夢は身を乗り出してテレビジョンの画面を覗きこむ。そこに映る守矢神社の境内には祭の時期のような黒山の人だかりができて、その中心は階段数段で登れる程度の低いやぐらであった。やぐらの真ん中は一段高くなっており、その上に見慣れた緑髪の、青と白を基調とした巫女服に身を包んだ早苗と思わしき後ろ姿が見えた。

「でもなんか……」 「太い……」

その後ろ姿は、なんだかとても丸かった。肩幅と腰はその丸さで明らかに広くなり、それ以上に丸そうな腹によってくびれ

はほぼ無くなり、腕も足も大根や丸太のような太さで、首は肉で半ば埋まりかけている。以前早苗の姿を見たのは一週間以上前ではあるが、まさかそんな短期間でここまで太る、ということは普通ありえない。

「あれ、やつぱり早苗ちゃんよね……あ、こつち向いた」

「ああ、うーん、そうねえ、多分、早苗つばいわねえ……」

その丸い体を、参拝者たちにぺたぺた触られたりぷにぷにと揉まれながら振り返ったその姿は、やはりとても太くなった早苗のようである。しっかりと営業用の笑顔を浮かべて参拝者達に応じるその姿は、丸くなったといえど霊夢のよく知る早苗そのものだ。

「太った身体で信仰を得ているってことになる、かなあ」

おかしい話ではない。昔からふくよかな女性というのは魅力的であるときれてきたし、豊作、安産などを連想させる『願われる』対象につながるものである。だとすれば、今守矢神社ではあの早苗で、

「あの身体を信者たちに差し出して信仰を得てる、つてわけね！」

「んん？ まあ、表現方法以外は間違っていない、かな？」

ぐつと拳を握りながら立ち上がった紫に霊夢はやや引きつつも同意すると、紫は二度三度うんうんと頷いて、

「霊夢も早苗ちゃんに負けない偶像（アイドル）になるためにぶつくぶくのデブになりましたよう！」

「ついにトチ狂ったかこの妖怪」

片膝立ちになった霊夢は台所の方を指さす。

「第一、うちにはそんなに太れるほどお米やらに余裕は——」

「あら、そんなの無くても簡単に太れるわよ」



紫が指を弾いてスキマを開くと、そこを覗き込みながら腕を突っ込んでぐるぐると腕をかき回して何かを探している。

「ええ、と、どこに入ってたかし、らつと」

紫が引っこ抜いた手に握られていたのは、片手で握るにはちよつと太い筒に、端には丁の字の取っ手が付き、逆の端からは細くて柔らかい管が長く生えている、不思議な道具だった。

「空気入れ、って聞いたまんま空気をつめこんで、管に繋げたものに空気を入れて膨らませる道具なのだけれど、コレにはちよつと特殊な細工がしてあつてね。この管はどんなものにも繋げられて、そして何でも空気を詰めて膨らませることが出来るのよ」

「なるほど、何でも膨らませられる道具、ねえ……」

瞬間、霊夢はちやぶ台を蹴り飛ばして後ろに飛ぶ。まず間違はなく紫はろくでもないことを考えている、と自分の直感が告げていたからだ。追ってくるようなら弾幕を、と次の手を思案していたところで、何故か紫の膝の上にちよこんと座らせられていた。

「で、この管を霊夢のおへそに繋いでー」

目の前に開いていたスキマが閉じられる。逃げたと思つたら逆にあのスキマに飛び込んでいた形だつたらしい。流れるような動作で、紫は霊夢の巫女服の裾を少しだけ上げると、ちらりと覗く形の良い縦型の臍に、つぶり、と管を差し込んだ。

「ひゃあ……っ！」

「ほーら、痛くないでしょう？ そしたらこの本体で空気を入れ

て」
ひんやりしたものが臍から身体の中に入りと入り込むという、経験したことない感覚に霊夢が驚きの声を上げるが、紫は子供を

なだめるよう声をかけ、片手で筒を、もう片手で取っ手を持ち引き伸ばした。そしてそれを元に戻すと、しゅう、と乾いた音がして、

「ひい！ 何か、何かぶくつて！」

「うふふ、上手く空気が入ってるみたいね。そーれしゅこしゅこ」
一定のリズムでもつて紫が空気入れの取っ手を伸ばし、そして押し込んで縮めるたびに、霊夢は内臓にぐ、ぐつと圧迫感を感じる。それを十を数える回数を繰り返すと、目に見えて変化が出てきた。

「お、お腹が膨れて……！」

圧迫感が寄り集まって、腹が妊婦のように膨らみだす。霊夢が驚いている間にも、紫は更に空気を詰め込み続け、妊婦腹を臨月のように、更に膨らませて風船のようになって、空気入れを押ししては引いての繰り返しを止めない。

「ほうら、いい感じに膨らんで……風船デブになつてきたじゃない」
紫は大きく張り出した腹を指してデブと言つたのだろうが、これではむしろ風船妊婦では、と霊夢は思つたのだが、

「な、なんで本当に太つてきてるの!？」

見て驚いた。手が、腕が、一回り以上丸々と太くなつているのである。それも張り詰めているのではなく、紫が言うように脂肪がつき、太り、デブになつたように。

「人と風船の境界をちよいと曖昧にして、色々といじればこんなものよ。さあ、早苗ちゃんに負けないようにもつともつと太らなきゃ」

得意気に語る紫はその間も霊夢に空気を詰め込み続ける。丸々と大きく張り出す腹のインパクトに負けて気付かなかつたが、貧



相だった胸はサラシをブチブチと千切りとぼすほど大きく膨れ、きゅつと締まっていた尻は紫の膝に収まりきらなくなるほど大きくなり、すらつと伸びていた足は本来の霊夢のウエストをはるかに超えるほど太くなっていた。もちろん、巫女服はそんな風船のように膨れ上がるデブ霊夢の身体を包み込めるはずもなく、弾け、千切れ飛び、かろうじて大事な部分だけ隠すだけになっていた。

「さーあ、まだまだもーつと太らせるわよー！」

「ちよ、や、待ちなさ、ひいひい！」

早苗は、数日前より更に重くなった体重によって石畳をカチ割りながら、博麗神社の境内へと降り立った。

「やはり、霊夢さんもウチと同じ方法をとった、という訳ですね」

「うん、まあ、そうなるみたいなのよねえ」

霊夢は数日前の早苗と同じように、普段では見たことないような人数の参拝者に囲まれ、ただ座っているだけで拜まれ、賽銭を投げ込まれるという、信仰の対象となっていた。ただひとつ違うのは、これ以上太りようが無さそうな早苗の更に上を行く、むちむちの巨体であったということだろうか。

突然振って落ちてきた早苗に驚いた参拝者達は、拜んでいた霊夢の周りから慌てて逃げ出す。剣呑な雰囲気のまま散らす二人に、弾幕ごっこの気配を感じて巻き込まれないように避難したのだ。そして安全なところまで離れたら、今度は好奇の視線で二人を取り巻く。

「正直、この体で弾幕ごっこできるか不安なのよねえ……あなたよりはまだマシでしょうけど」

「ええ、ただでさえ霊夢さんには早々勝たせてもらえませんが、なにより今はこのウエイト差ですからね。ですが、それを利用する方法もあるんですよ！」

早苗はその太い腕で祓串を掲げると、突如として暴風が吹き荒れる。とは言え、普通であれば踏ん張れば我慢できる程度であるが、

「え！？ ちよつ、ひやあああ！」

空気で太らされている霊夢は、強風に耐えられず後ろに倒れ、やぐらの上から落下する。ぽよん、と、風船のように仰向けに落下した霊夢は、その良すぎる肉付き故か、上手く立ち上がることができない。その間にどすどすと重い足音を響かせて早苗が近づいてきた。

「可愛らしい格好ですねえ霊夢さん……私がつと可愛くしてあげましょうか？」

と、霊夢の臍に何かをずぶりと差し込んだ。つい最近感じたことがあるその感覚は、予想通り早苗の手に握られている空気入れ。

「な、なんでそれを早苗が！？」

「その妖怪さんにさっきいただきまして」

霊夢が神社へと視線を向けると、湯呑みを片手に微笑む紫色がひとり。

「あんたの差金かアー！」

「ふふふ、念願の超巨大ムツチムチデブにしてあげますよお！」

「私だつて好きでこんな体型になったんじゃないんだつてばー！」

しゅう、しゅう、と早苗が空気入れに取っ手を押しこむ度に、霊夢の身体が更に太くなり、ただひとつ違うのが、皮が伸びきってしまったためにこれ以上太らず、風船のように張り詰めパンパ



ンに膨れ上がってきているのだ。バストもウエストも圧倒的に早苗を上回り、上回りすぎて上手く身動きが取れなくなった霊夢に早苗は容赦なく空気を詰め込み続ける。

「や、やめて、これ以上太ったら……」

「ばあん、つてしてスマートな霊夢さんにきつと戻りますね！」

早苗は更に空気入れを早く動かし、霊夢を空気で太らせる。顔にまで空気の脂肪が着いた霊夢は頬がパンパンに張り詰め、手足が曲がらないほど膨れ上がり、超重量早苗を持ち上げるほど丸く膨れ、

「んむううう！」「おりやー！」

ぎゅむ、と早苗が空気入れを押し込んだ瞬間、ぼん、とはじけた。

「うう、ひどい目にあつた……つて、え？」

早苗に太らされすぎて爆発させられた霊夢は、身体の重さを感じていた。薄目を開けると早苗が上に乗っているせいだから、そのせいだと思つたのだ。が。

「え？ あれ？ 霊夢、さん？」

なぜか早苗がのしかかつていたのは、早苗と同じくらいまるまると太つた自分の体であつた。

どす、どす、と重い足音が二つ、博麗神社の境内に響く。その

一つは、さんざん太りに太つた早苗が鳴らしているもので、もう

ひとつは先日まで風船のように軽かつたはずの霊夢のものだ。

「はあ、ひい、まさかこんなすぐに今度はスレンダーブームが訪

れるなんて……」

「ぜえ、ふう、なんで突然、風船じゃなくて本当のデブになつちやつたのよお……」

二人は色違いでお揃いの、体操服とブルマを着用してランニングに励んでいた。太るだけ肥りきつた百キロ超えのその肉体は、まるで歩くような速度で運動するだけでも一苦労なのだろう。境内をぐるぐると走り続けていた二人は、溢れ出る汗を拭くこと無く、今度は神社正面の階段をえつちらおつちらと降りていった。

その二人を、階段のすぐ上の大鳥居の上から眺めている影が二つ。「うーむ、早苗もこれに懲りて安易な信仰の集め方をしなくなる」といいんだけどねえ……」

「あらいいじゃないの、現代っ子はみんなガリガリだからアレくらいぽっちゃりの方が可愛らしくてよ？」

ぼっちゃりねえ、と紫の横に座る神奈子が見つめるその先は、シルエツトが丸くなるくらい太つた早苗と霊夢の後ろ姿だ。

「というか、霊夢はただ完全に巻き込まれただけになるけど、それはいいのかい？ 徐々に太つていった早苗より辛そうに見えるが」

「うふふふ、普通の霊夢も可愛いけどあんな霊夢、こうでもしないと見れないからね、なんならもつと太らせても良くてよ？」やめといてやれ、と神奈子が言う辺りで二人は階段をおりて、

今度は折り返しに入るところだ。が、先に登り始めた霊夢がぐらりとバランスを崩して、

「「あ」」

今度は霊夢が早苗の上のしかかる形で積み上がった。



そんなあ
何も企んじや
いませんよ？

じゃああなたのその手に
持っているのは
なんなのよ

あ、あなたが「新しいアソビ」を
するのに服を脱げていったから脱いで
来たけど、あなた何かいかがわしいこと
考えてないでしょうね！

これは永琳さんが
作ってくださった薬で
こう胸に打つと：

アゲ

たふん♡

とばん♡



こ、こんな風におっぱいが大きく膨れるのですッ

天子さまはどうです？
すっごくキモチイイですよ？

いいや私は別に大丈夫だからそういうの

にやにや♡

にやにや♡



遠慮なさらずに！

とっても天子さまはまた別の方法ですが♡

にやにや♡

ふん♡



ではまず股を開いてください♡

それで次は…♡

えっ♡

にやにや♡





さすが天子さま
私のミルクもどんどん
飲み込んでしまいますわ♡

でも先ほどより
ちょっと入りずらく
なってきましたかね…



そうだっ♡
天子さまのその膨れあがった
身体の重さを
利用すれば…

天子さま知っていますか？
この薬を含んだ母乳を

身体に取り込んでから
このように

おっぱいを刺激
しますと…



ふふっ
すっごくピンカンに
なってるでしょう？

でもそれだけでは
ないんです



天子さまばかりキモチヨク
なっていてさみしい
ですからね…







ニギニギ

カッ
カッ

い、衣収っ♡

私も天子さまのすべてを受け止めたいですっ♡

お願い!!
あなたのすべてを私の中に注ぎこんでっ♡

ふぁい、
なんで、ぎいましゅかっ?

それじゃ...
せーのっ♡

今からこの郷の調査を行います...

了解：人間には見つかり次第
敵と見なし、即刻排除致します

こちら清蘭幻想郷に着きました...
はい...鈴瑚も一緒です...

せいらくん物騒だよ？
初めてのところだしさ
もっと楽しんで行こうよー

もう、そんなこといって
仕事なんだしシヤキンをやりましょ

幻想郷列島
ダイエットセックスの旅
描いた人：くろうす

そんな？
清蘭こそ服パツパツじゃん

この俺たち
ダイエットセックス兄弟が直々に
アクメトレーニングを伝授しよう！

とこで鈴瑚
最近太ったでしょ

なんだと
それは大変だッ!!
ぬおあー!!

第一村人オ
発見ンツ!!

ツープラントで徹底的にやりまくって
ドッキングでシゴいれやるぞ

えろこれって
まさかの展開なんだけど...

こちら清蘭、幻想郷の男と遭遇した
しかしあまりにも強すぎる

参考として提供された
地球の資料簿い本で見た通りだ...

駄肉 こんなに掴めるぞ
ちと身体を使えー

はひつこのめんしやい
トしーニング怠つてまひたあ
もつと清蘭のおまんこイジメて
もつととろけしやせてーツメて

よくし、この調子だぞ
がんばれツがんばれツ

あっひあ

たろっ

むにっ

ちゅぽ
ちゅぽ

ちゅぽ

グッ

グッ

奴らは私達を屈服した後に
肉を食い喰い精神にも威圧で捻じ込む

ちがいましゅ
鈴瑚はトドれしゆから
んはあ
おまんこシゴかれて
オナラがとまらなれしゆー

ポーズを崩すな
オットセイのポーズを
維持しろ

まったくしかたないな
ちと加速するから耐えろよ

鈴瑚の精神も
限界寸前だ...

ぷるん

ぬっ



さあアクメスクワットだ
ちもと腰を使ってまんこで悦ばせろよ

駄まんこ
限界れしゅう

ちんぽおあ
いいいい

キチンとてきたら「褒美」
膣内射精してやるからちもと頑張れーッ

ちもとだーアクメしろー
イキまくれ絶頂しろ多

我々、月の民が侵略するのはまだ早かった
奴らの技術と体力は底知れない

これだけは言える…
侵攻は無理だ、全員蹂躞される

おちゅちゅ
ぬちゅ

おちゅちゅ
ぬちゅ

おちゅちゅ
ぬちゅ

おちゅちゅ
ぬちゅ



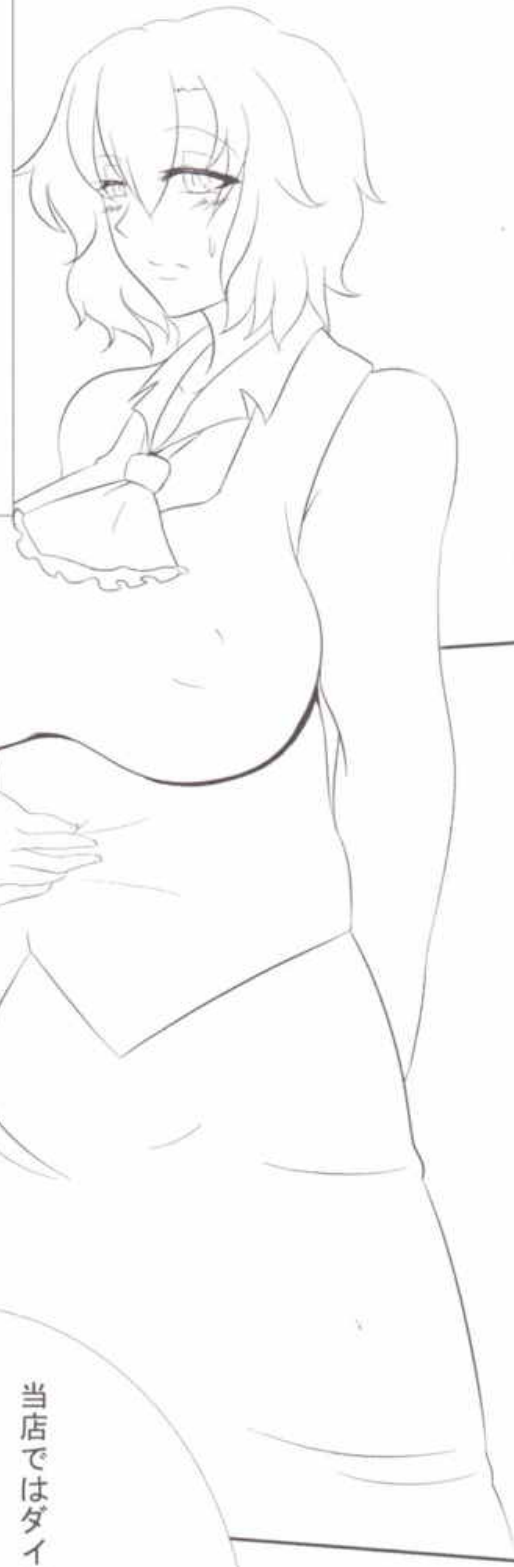
2人共よく頑張ったぞ
ご褒美の着床だぞ
子宮までしっかり注いだからな

明日も同じ時間にアクメレッスンだ
しっかり励んで絶頂しろよ

この性生活にドハマリしましたあ
もう戻れないくらい随っちゃった
…まあいいか



最近お腹まわりが
気になりだした
ゆうかりん




ダイエットSEX!
黒いメガネ

SEXダイエット
エステへようこそ
お客様は当店は
初めてですね？


! ?

当店ではダイエットを目的とし
SEXを取り入れた
エステティシャンと共に
運動、マッサージをご堪能いただく
メニューをご用意させていただいております


まずは
SEXしやすい
衣装に着替えて
頂きます




ではさっそく
一緒に
ダイエツトSEXで
エクササイズ
しましょう



スケベ衣装に
ドキドキな
ゆうかりん



最近「ご無沙汰」で
まんざらでもない
ゆうかりん



お客様には
積極的に
動いていただき
ありがとうございます

ノってきたゆうかりん
激しくお肉を
揺らしちゃう♡

衣装がはだけても
今更気にしないで
おっぱいブルン♡ブルン♡
激しくSEX♡

おおっ！
いい動きです！
自分も膣をマッサージ
するので
がんばってください！

中出し♡
でも気持ちいから
許しちゃう♡
女の子だもんね♡

おほっ！
申し訳ありません
ですが自分は
まだまだ萎えないので
ご心配には及びません！

一時間後
5 発目 ♥

流石に大妖怪
こんなもんじゃ準備運動の
うちのも入らない！
もつと欲しくて
たまらないゾ！
ダイエツトSEX
頑張っちゃうんだから ♥

あの…お客様？
当店としてはそろそろ
お時間なので本日のSEX
マッサージダイエツトは
終了とさせて
頂きたいのですが…
え…ダメ…(デデドン)

3 時間後
まだまだ頑張れちゃう
ゆうかりん ♥

でも頑張る前より
お腹まわりが
えつちに大きく
なっちゃってない？
気持ちいいからいい？
じゃあいつか ♥

というわけで
今日は
浣腸オナニーよ！

たまには
自分の好きなことをしないと
ストレスたまっちゃうよねー

事前準備で
洗浄もほぐしも
バッチリ♡

後はホースを
使って……



よい...
よい...
と



あああああああ
これきもちいいっ

ついでにホースも
奥まで入れて

あ...あ...
入ってくる...



ああ♥
過去最高に気持ちいいかも♥

ホースを奥深くに入れるだけで
こんなに気持ちよくなれたんだ♥

ゴポッ
ゴポッ

ゴッ
ゴッ

ゴッ
ポッ

っと
ひとまず
この状態をキープして……

ぬっほり

あ♥



ちよこっ!?



ああー
これは新しいプラグも
買わないとダメエ……



よし! ちよこ
どこからどう見ても妊婦ね!
これで安く
買い物ができる!

ポテ



トコロ

楽しみが増えちゃって
どうしよう♡





同僚同士お互いの体調は
癒していかないと
授業にも支障が出るからな

はは
だいが溜まってたようだな

へとへとね：







全知の明



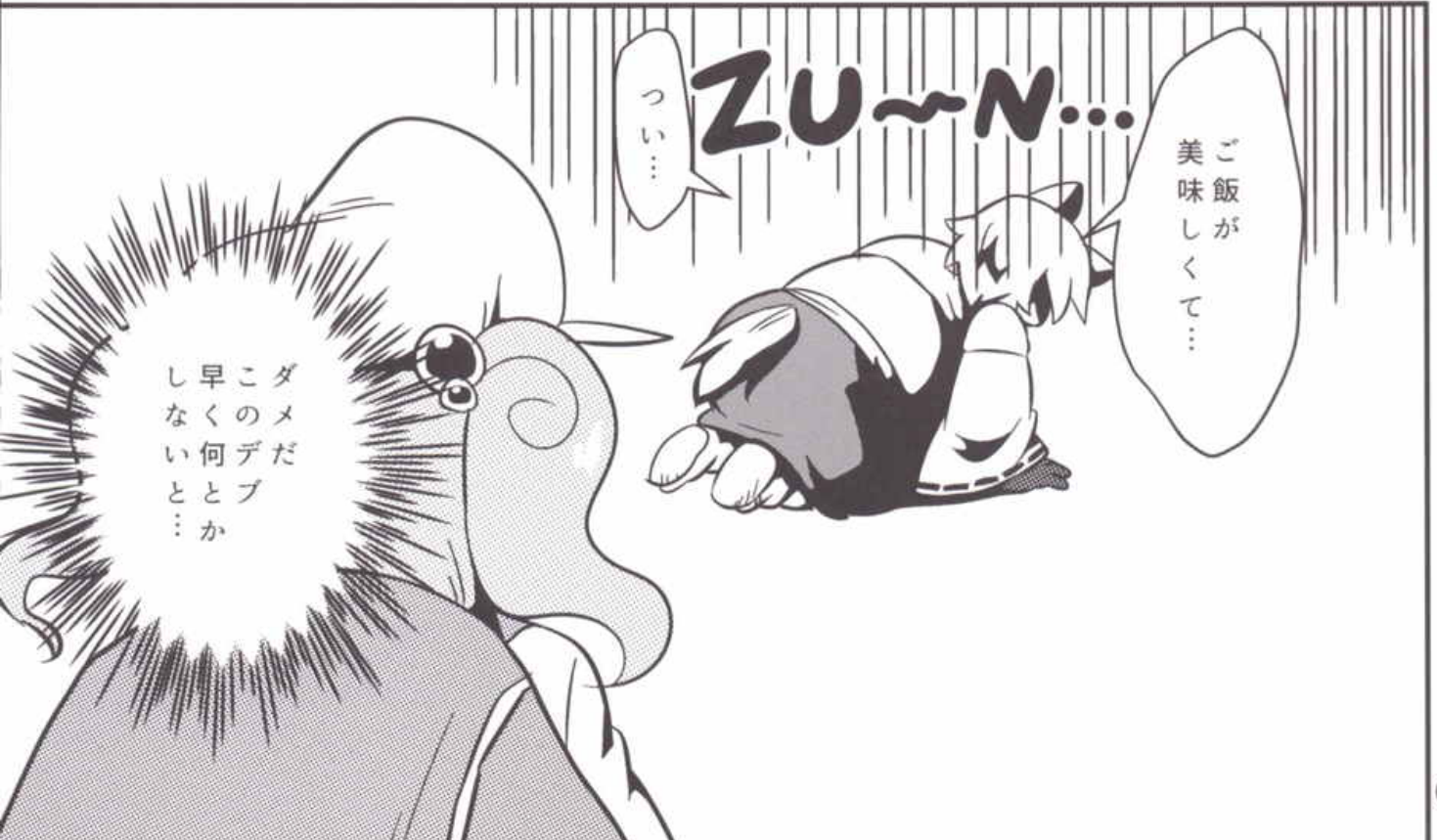
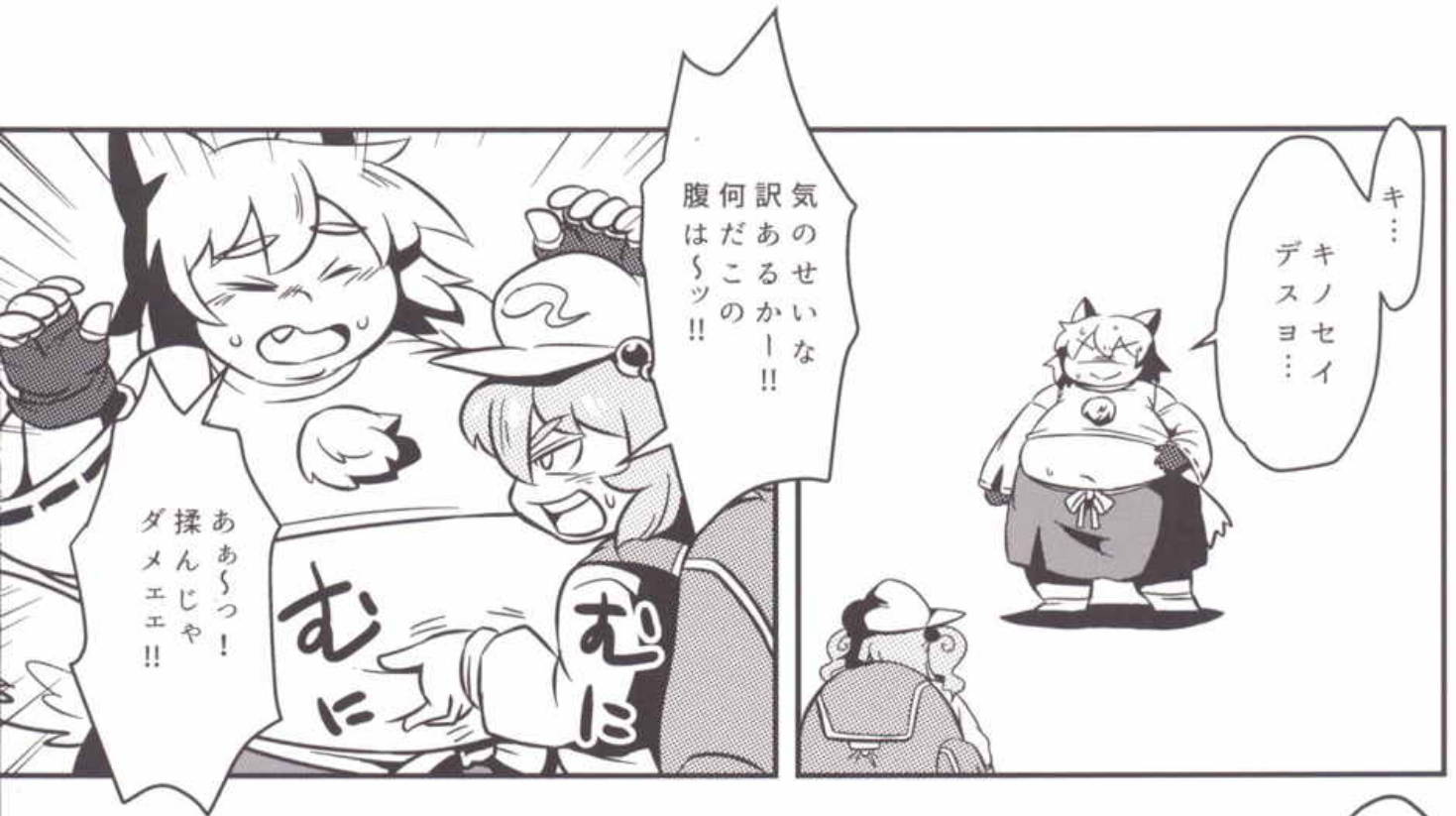


いっけー...

タペン

最近驚かすのが好調で喜んでいたところ、満腹の思わぬデメリットがあった様子









あ、これ
ダメなやつです

景気付けに
どうですか？

人里に
新しい
甘い処
が出来
ました
そう
です。

わあっ

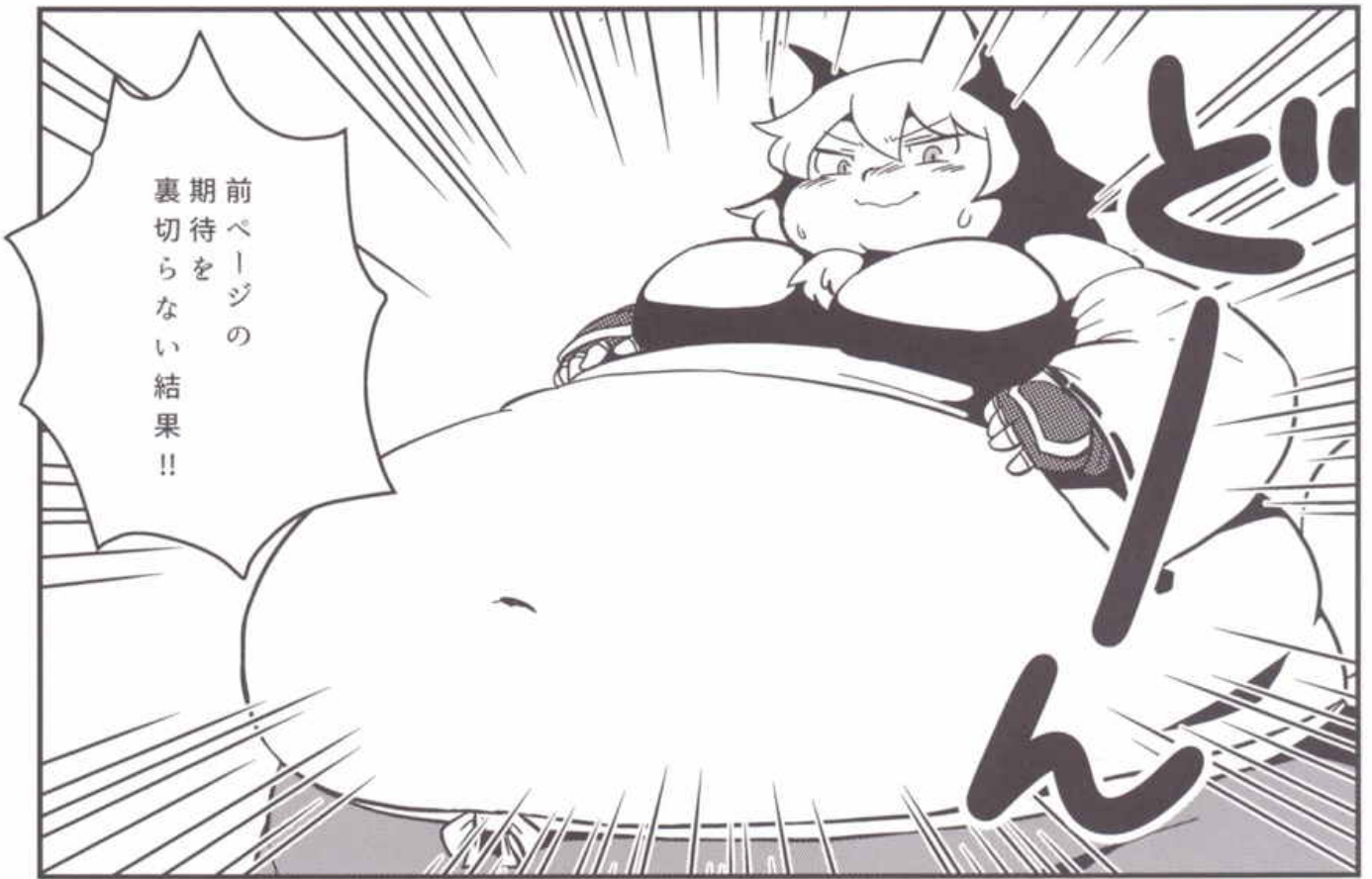
行きます
行きます！！



過酷要素ねえー！！

こうして
華扇による
過酷な
指導は
続き…

一週間後。



前ページの
期待を
裏切らない結果!!



ううゝ
なんでじゃ…

そりや
アレだけ
食べてりや…

失礼な!
ちやんと
ダイエツト
を…

?



いやあゝ

頑張つて
いたん
ですけどねえ

食べる事
をな!!
…というか、

お前も
太るのかよ!
どんだけ
ガバガバ
なんだよ!



…本当だ!!

しい加減に
しろ!!



溜まってるって
やつですか？

ザ...

ザ...

そこそこ
ヤバイわ



それじゃあ
こいでひとつ
抜いちゃいます？

えへっ♡

!?



ま

ム...

ぬえぬき
南條つくみ



小傘！
変なこと言うから!!

ごめん
びつくり
するかな
と思つて...

近くの小屋で
出ていこうか

のと奥に亀頭キメラれて...
匂いが脳天直撃...癖になる♡

ルナサ姉さんの
おちんちん
おっつきすぎ...

ほーらルナサ姉さん
おちんちん気持ちよく
なってきた
でしょー♡わかる♡

なにこれっ♡
グッ♡んんっ♡
スススス♡

ビクッ♡

中からとろーって
奥に浸み込んで♡
んんん？試しに
触ってあげる♡

でもとろとろ
お薬がキマって
くるころかしら？



あはっ♡イッてる
ちょっと触っただけなのにすぐ
イッチャウダメちゃんぽになってる♡

イキ顔
がわいっ♡

ルナ姉のイキ顔かわいくてちよっと漏れちゃった

おちんちんの良さ分かってくれたかしら？
もっと癖になっちゃうほどの楽しみ方知れたかったら
めいっばいのいやらしいポーズ、おねがいがいい



竿役盗られた！(泣)

〜永遠亭〜

痩せ薬の治験って聞いて
ただけど…

妖夢は落とす肉が
少ないから、多少
増量して欲しいのよ

おにくに効くクスリ
作 ねりぞう

うゝ、あまり
気のりしない
けど…

まあ、今日は
好きにだけ
食べてつてよ

あ、これ美味しい！

ほんとに全部
食べていいの？

遠慮しなくて
いいからどんどん
食べてね



私は太目な妖夢も
可愛いと思うわよ？

ねえ、そろそろ
体型ヤバいんだけど
薬まだなの？

ぽよん



ふざけないでよ
もう…

まあ、そんなに言うなら
スリーサイズ測ったら
お薬あげるわよ。







そうだねえ
お腹の子も「早く出たい！」
って毎日のようにお腹を
蹴ってるよ



小傘ちゃんだいたいぶ
お腹大きくなったねえ



そこで提案なんだけど、
小傘ちゃんも安定期に
入ったことだし、久しぶりに
どうかな？

ごいっぺんだけし



うん…!

ドクドク

いいよ…

じゃあ…今夜…ね…♡

ドクドク

おちんちんもうこんなに
かつちかちか：
そんなに期待してたの…？

えへへへ

あつ〜♡

ストリー
ストリー

あはは…

そりゃあ数ヶ月ぶりだからね
色々期待しちゃうよ
とりあえずなかの子供のためにも
最初はゆっくり…

ってまったく聞いてなさそうだな…

久しぶりのおちんちん
気持ちいい！！

（前回のあらずじ）
さとりは触手に捕まり
苗床にされてしまった！

作：パンダイン



捕まってから
どのぐらい経ったのか

ハァ

ひり出した触手の幼生も
大小合わせて十匹目からは
もう覚えていない。

だけどもまだ大丈夫
生まれた触手は全て未成熟…
体が苗床になりきっていない証拠

触手の媚毒体液を浴び続ければいずれ
苗床に成り下がるでしょうけど…
必ず逃げるチャンスは来る…！

ヒッ—痛ッ！

毒針？！
直接体液が注入されて…ッ

お、お腹アツ？！

ギイツ！



きやあっ



いよめめめめめめ
あめめめめめめ

これダメっ
体が苗床に：
改造されてるっ



かつは…ッ



誰か——

んま……♡

これ以上は……ア……♡
苗床にされ……♡

お……♡

だ……め……え……

助け

まあまあ…
洋服のせいにしておきながら

随分とご立派な
お体ですこと…

くっ…

しかしノーブラは
関心しませんねえ

うっ
うっ
うんぬん…!!

うふふ
パチューリ様がこんなに
だらしない体でも私は好きですよ

……
こああ……ッ

自分の体から出る汗
はかき流すわーッ!!

汗かき流すわーッ!!

先ずは
啜えて
もらおう
かしら…

ぞろん

ひゅっ
かぼっ

ちよ!!ちよつと!!
いきなり…

それっ…
激しすぎっ…

ほっほっ
ほっほっ
ほっほっ

ちよつと藍!!
そんなところに舌
挿入れたら…

なんで…
気もちひいつ…!!

くっ…
いい加減に

かほっ
かほっ
かほっ

ギョッ



× ☆

ブル

プリン

キリン

キリン

ア

オ

お

ス

お

藍!!
アンタ...!!
どんだけ...

お

お

お

この、これっ...
ちがうかい...!!



あ……はあ……

また楽しみ
ましようね……
うふふ……

良かった
わよお……
藍……





ズブ

ズブ

ゴブツ

ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ

…ねえ…

小悪魔

コレ本当に
効果的な
ダイエット法な
わけ…？

もオっちろん
ですよー
パチュリー様

今、魔界で
大流行の
加圧式マッサージ
ダイエットですよー
みんなやっていますよー



ほ…
本当に？

本当です
ってばア
信じて
くださいよ

それじゃあ
マッサージ
はじめます
ね

「おっち…」
「ぎゅ…」

さー次は
マッサージ器を
使いますよー

これで
血流を良くして
新陳代謝を
活発にするん
ですよー

ニツカー☆

その次は

低周波
治療器で
脂肪を集中的に
燃やします
よー



お風呂にて

ちよつと椀さん
最近たるんでや
しませんかね
運動しなくちゃ

すごく今更では
ありませんか？

愛肉
Love meet
松の芽

最初に会った時から
こんなでしたよ



ちよつとケツコ
生やすわ
つこんな駄肉
つけて天狗に
哨戒でなれる
なんないでしよ
訳ないでしよ

いやそんなこと
ないっしょ
何その肉...

またそんな事
言ってる

ブルッ

ズキ...



クミン...
最近そんな事
言っては私の体
好き勝手
しますよね...

上...
上の命令は
絶対なんですよ
下に生きる者の
悲しい性ですよ

パッ
パッ
パッ

ズチム...
チユグ...

嫌だったら抵抗
すればいいのに

またまた



止めるの一言も
無いでしょ

ズッ
ズチム

あつ
そろそろ

ニヂム



あ...

は...

あ









ぐすつ…
こんな体じゃ
もう外に
出れないよお…

えっ、
ぬえちゃんには
正体不明の種があるでしょ？
それで解決じゃん。
不満なら私がミルク搾ってあげるし
ダイエツトにも付き合っあげよ。
一緒に脂肪燃やそ♥(意味深)

よし分かった。
燃やそうか。

あ、待ってぬえちゃん、
弾幕はそんな至近距離で
撃つものじゃない
あぁあぁあ

おわり

天高く、馬も狐も
肥ゆる秋...

お肉藍様を触手で 縛り隊！

By 405さんの汁

主が見ぬ陣に
節操無く肥えよつて
この駄狐が!!

どうして
こんな事に...

ひん ひん

アイ
エイ
エイ
エイ



な、なんで
バレたんですッ!?
服を脱して
おのこ!!

橙を見なさい!
貴方の体格の変化が
式神を通じて
伝わってしまったのよ!

ぷくら!

でなくとも人里で
「きつねうどん大食い勝負で
80杯食べた女がいる」
って噂になってたら
分かん方がおかしいわ!

全部
馬に変え
よこ!!

たぶん





2時間後…

頃合いだな…
ほれっコレを
返してやる

んぎい♡

じゅん♡
ぐびゅ♡

ニチ♡
じゅん♡

ビュポ♡

ほうほうそれは
可愛そうに…
だが安心してよ
胸が駄目でも変りは
あるわ…!

ククク…だらしなく
汁を撒き散らしおって
すっかり乳穴が広がったな
どうだ？霍青娥よ？
これで自由に動けまい？

いやあ…こんな体
こんな体嫌あ…誰か
誰か助けて…

ドゥハハハハ♡
ハハハ♡

おっ…お願いします！
ご慈悲を！もう許して
くださいこれ以上は胸が
壊れてしまいますっ！

ビク♡
ビク♡

ムチ♡

又ポッ！！
さあ…お次は
腹枷じゃ…!

又ポッ！！
おしまい♡

グポ♡
ビク♡
嫌あああっ！！
いやああああ
誰かああああ

又ロオ♡

ぐに♡

おにくのグルメ

by ろじうー



地底にオープンした
評判の焼肉屋
美食に目がない
ゆかゆは早速
行ってみたのだ

これは
期待できる
わね

わっ
すごい行列!



ところで

あなた
また太った
んじゃない?



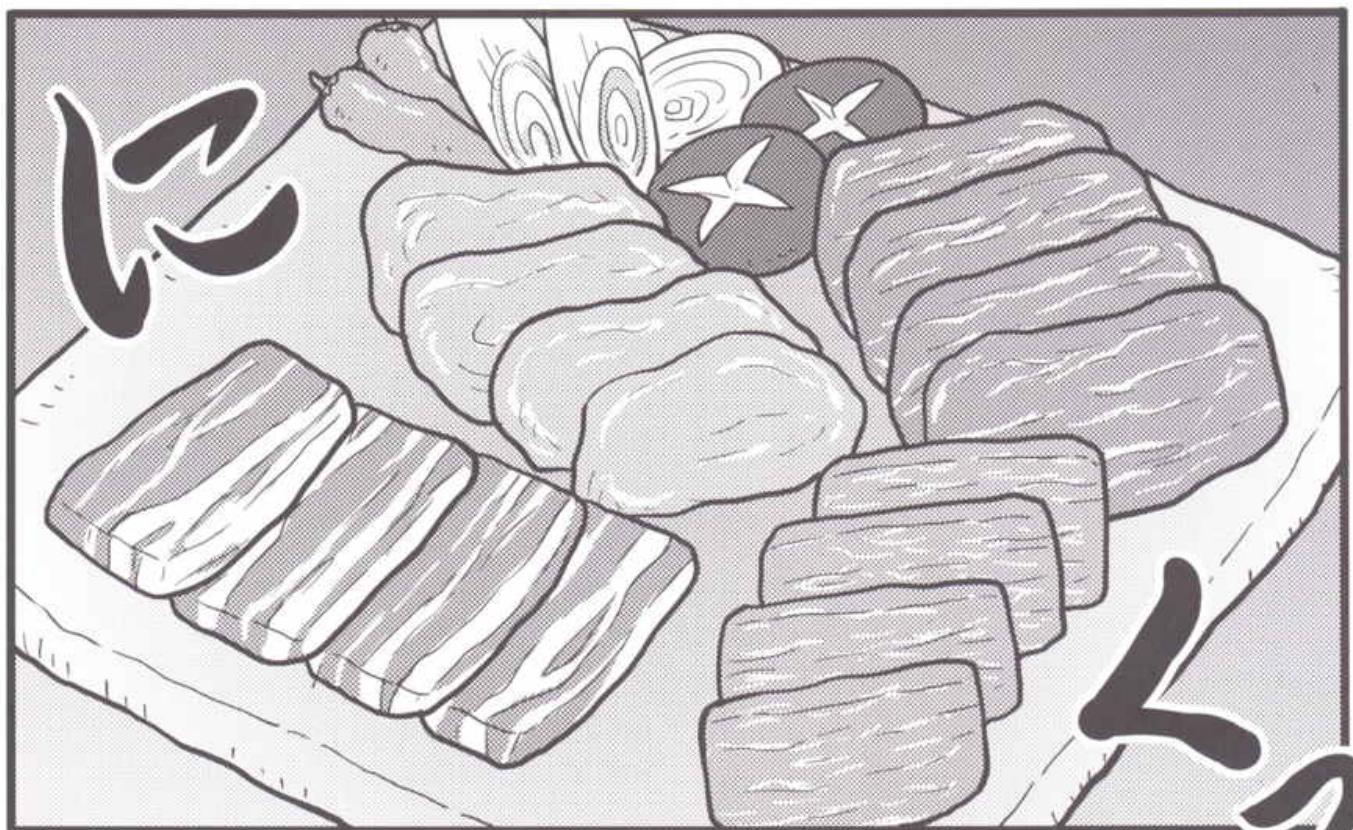
一時間も
待たされちゃって
もうおなか
ペコペコよ

古明地牧場で
健康に育った
A5ランクの和牛
なのね



ええ〜?

そんなこと
ないわよ







このイチボの
旨みったら！

おしりの
極上の部分だけを
抽出したような…！

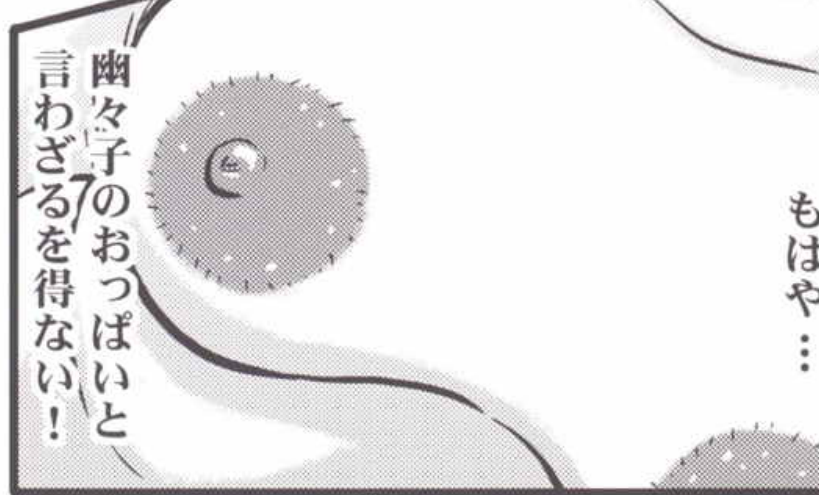


そうよ！
これは紫のおしりそのものだわ！

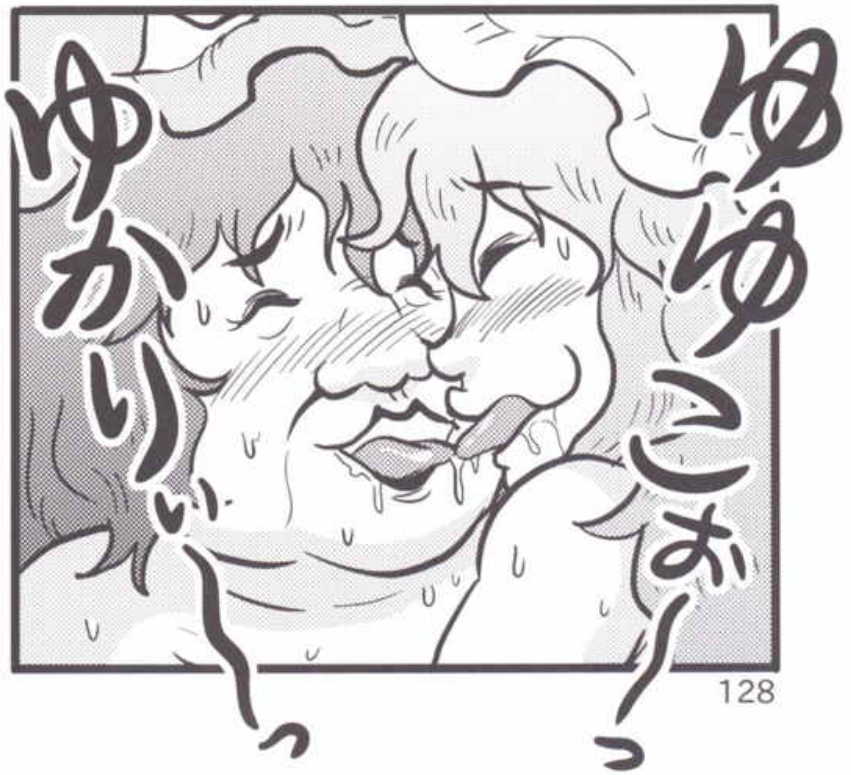


まあ
このオツパイ
全然しつこく
ないわ！
甘みを残して
トロ〜ツと
溶けちゃう

この奥深さは
もはや…



幽々子のおっぱいと
言わざるを得ない！



あ、
お客様困ります！
お客様！
困ります！

困るっつってん
だろ！やめろや
クソババア！



当然のように
出禁となった
ゆかゆゆでした。

おちまい。

弾幕勝負に敗れ
ふたなりお空に
あてがわれた霊夢さん

とびかた...

おちんほ
おさまらないよお...

三日三晩も休まず犯され
瑞々しい少女の秘所は雄牛のような
チンポに裂き上げられて
肉オナホに
未成熟な子宮は
バケツ一杯の射精を何度も
何度もぶちまけられて
ザーメン袋に成り果てる

しかし人間の巫女ひとり
を使い潰したくらいでは
神を飲み込んだ
お空の性欲は
到底収まらないのだった



次の
犠牲者は…

あ
あ
!?

あ
あ
あ



ひゃん!

むにゅ



おいしいルーミアちゃん!

もぐ もぐ

むちゅ

むちゅ



いいきなり何するのよ!

いやーエロくて大きなお尻が見えたからつい...

や、やめてよこんな所で...



...あなたはなんですぐそうなるのよ...早く済ませてよね

こいつを満足させてくれたらすぐにやめるよ



スリ スリ

むにゅ

むにゅ

もろっ



ぐに ぐに



んにゃあ
ああっ♡



ガバッ

きゃー
アナル妖怪に
食べられる！(棒)

誰がアナル！ミアよ！
玉の中空っぽになるまで
押しつぶしてやるからね！



すいやー
ありがとルーミアちゃん

…女の子を
いきなり犯して
自分だけ満足して
帰るつもり？

そんなの
許さないわよ！
次は私が襲ってやる！





お、おまん〇に…
橙さんのおちん〇を…♡



ほらほら、
どうして欲しいのかな？

そ、それは…♡



入れて下サ...

たははん

はははは

はははは

はははは

たははん

はははは

はははは

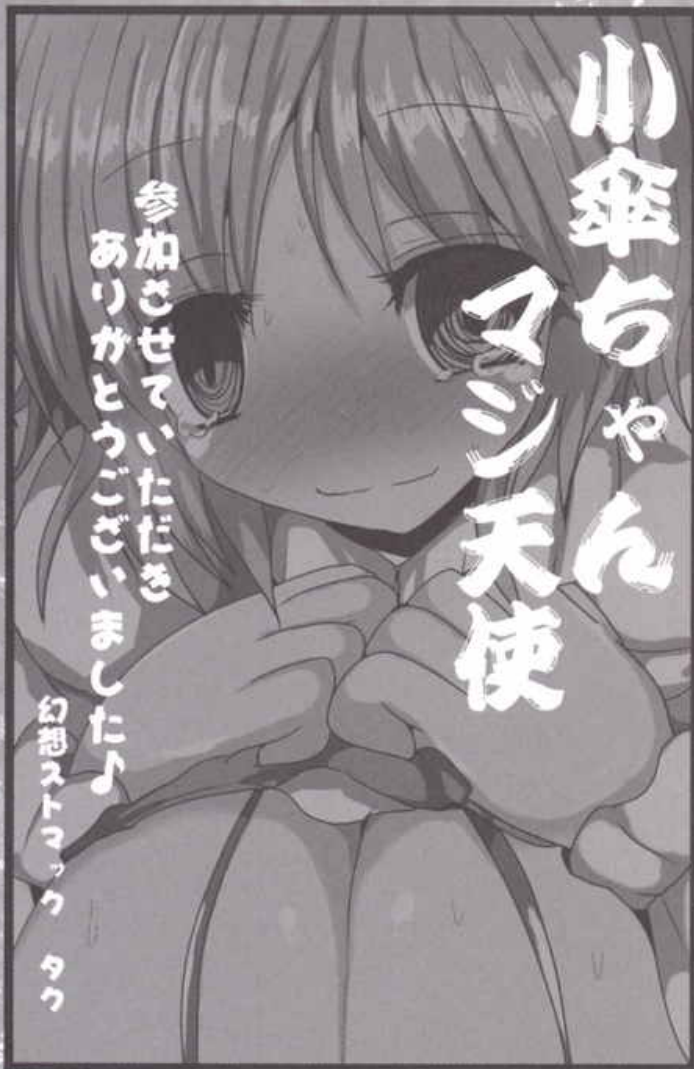
はははは

はははは

はははは

はははは

はははは



お肉 + 汗 II 最高

「描かせる持論のもと
「かーうち」でした。
描かせていたきました。
描かせる持論のもと
「かーうち」でした。
描かせていたきました。



ハンドルネーム：おるか

おにくいよね ^^
どうも今回はじめて
漫画を描いてみたのですが
これすごい難しいですね！
まあでも好きなものが
描けたのでよかったです！

二人とも危ない体重的なのに
片方が優位に立っていると
錯覚してるの

よくないですか



楽しんでいただければ
幸いです。

@not_shiranui

仮縫い

どうも、SS作家なのに参加させて
頂いた「カスピ海ヨグルト」です。

東方キャラがセックスで勝負する
展開ってありそうでないじゃない
ですか。あったとしても、抜いた
数勝負だったりして直接対決して
あまりないんですよ。ってかほとんど
見たことがありません。

んでもって今回のおにく合同では、
性的に強そうなイメージのある
むちむち幽々子さまがよりすごい
永琳にヤラれちゃう感じで書きました。
本当に書いてて楽しかったです。
自分の肉体に自信がある女性が
さらにレベルの高いのとぶつかって
屈辱のなかでイキまくる姿って
僕としてはとてもエロいと思うの
ですが、それが上手く出せたの
だろうか……

最後になりますが、素晴らしい合同を
主催してくださったAnchors
さん、そして買ってくださった皆様に
伏してお礼を述べさせていただきます。

TwitterID:@vogbisbis

あとがき

今回初合同誌で色々緊張しました……

普段あまり見ない映姫の肥満化を
書かせていただきましたが、
いかがだったでしょうか？

もっと映姫の肥満化流行れ！

棒の人

最近、さとりママからお燐に浮気中の
lapinessです。

ということで今回もさとりママでは
なく、クソデブビッチお燐を
描かせていただきましたwww

エッチなことは良いと思う合同誌
だったので好き勝手にやらせて
いただきましたw

今後もお肉、ポテ腹、デカ尻中心に
いろいろやっていきますので
よろしくお願ひします。

おデブちゃん抱き枕もやってますw
詳しくは「HORIC WORKS」で検索!

<http://www.pixiv.net/member.php?id=239257>

<http://lapiness.deviantart.com/>

<http://horicworks.com/>

by lapiness



黒風ノ空

pixiv ID =1210825
twitter @kurocazenosora

はじめまして、黒風と申します。
今回こちらに参加させていただきありがとうございました。
特に書くことも見当たらないのでこちらの大妖精であとがきと
させていただきます。

膨張×お肉を組み合わせてみたら
気に入ってしまったので流行れ。
風船デブ霊夢ちゃん流行れ。

守島裕輝
(@kmsm_era)



読んでいただきありがとうございます。
お初にお目にかかる方ははじめまして。
twitterやpixivなどでおめにかかっているかたは
こんにちは。狂華です。

今回は初めて合同誌に参加させていただき、
ほんとうにありがとうございました。
つたない文章となにぶんはじめてしっかりと「エロ」
というジャンルの漫画を描いたので、擬音語も線も
アングルもどうすればいいのかわからず、試行錯誤
しながら描かせていただきました。
まだまだ表現の技量が足りないのを、線を引くたびに
痛感するものとなりました…

膨乳・膨腹メインとなった漫画ですが、この部類も
表現方法としては十分に「おにく」の部類に入ると
自分は思っております。

最後に、大幅に予定をオーバーしての入稿を許して
くださった上に原稿のチェックをしてくださった
Anchorsさんに感謝の意を述べさせていただきます。
本当にありがとうございました。

それではこれにて。

PIXIV : 4063401
Twitter : @kuroimegane

ダイエツト
エクササイズ

SEXつてなんだよ！

ドーモ 黒いメガネニデス
此度も合同誌に参加させて頂き下さった
Anchors様に感謝を！
リアルの都合でモノクロのトーンもない
粗末な漫画でごめんなさい！なんでもしすから！



お肉合同発行
おめでとうございます
嫉妬マスクです。
今回は天子ちゃんイラスト
を寄稿させて頂きました。
あまり大きくないキャラを
大きくするとギャップ
でエロくなる…気がします。



上乃門

Twitter : @KaminokadoAkira

PixivID : 383331

・あとかき
ボテ腹大好き、お尻大好き
そんな素敵なお誘いいただき
ありがとうございます！

もう一度言います
僕はボテ腹、
お尻が大好きです
(´・ω´)
お粗末さまでした

上乃門



この度は、素敵なお誘いに参加させていただき誠にありがとうございます...!!
女の子はやっぱり多少おにくがあった方がいいと思います。それを気にしてる仕事とかもまたいいものですが、構わず溺れてみたいですよ、私はしたいのですが、はい。ただ普段描いてない分難しさを本当に実感しました...ぼっちゃりめくらしいを目標にしたつもりですが突っ込まれそうな予感も...あわわ

ドリアン

今時間なくてすっごく「あっあっ」
ってなってます。

合同参加させていただき感謝です。
おにくって良いよね。
フリスムリバー
もっと人気出る！

奈津みかん

出番
すくねえ。



なにぶん
初めてなので
おそろおそろの
作業でしたが
楽しかったです。

幻想郷の
女の子達の体重が
5割増しくらいに
なれーっ!!



謎中 魚

あとがき

読んでいただいて
ありがとうございました。
初めての同人参加、そして
漫画作成でいろいろ
至らない点もありますが
少しでもお肉の良さが
皆様に伝わっていたら
嬉しく思います。
そして、お肉絵描きさんも
ふえたらいいなあと
思います!!



ねりぞう

この度はこの様な性癖どストライクな
合同誌に参加させて頂き
誠にありがとうございます。
サークル「重白金」の南條つくみと申します
普段から18禁ばかり描いています。

乳はでかく描きたいけど、
でかく描きすぎるとコマいっぱい
におっぱいが埋め尽くされてしまうのが
こまりどころです。



重白金

南條つくみ

おにく合同のおかげで
さとりの限界値が
上がりました。

パンダイン



今回もアンカースさんの合同に
参加させていただきました！
z時間がなくて大変でしたが
楽しかったです！ ふうた

ぽんのし3み

ぴくしう：22 1978

とらた：boonist

インスタ → boonist 18

ツイッター →

おきつ
まじした
は
おしり
は
エロ
い
んだ
は
な
み

乳首 陥没



風亜ゆう



このたびは参加させていただき
ありがとうございました。
パチュリーの肉めっちゃ描けて大満足です。

浪花道またたび

[pixivID : 1045295]

[twitter : naniwadou999]

[blog :

[http://bantendo.blog.fc2.com/\]](http://bantendo.blog.fc2.com/)

お、ばい



...ゴメンナサイ
by 鳴神藤四郎

今回は描く機会を頂きまして
ありがとうございました
今回は赤蛮奇ちゃんに、私の
好きな性的要素を詰め込むこと
を主に考えて描きました
オナニーとセルフフェラで気持ち
よくなるむっちり赤蛮奇ちゃんが
増えると、個人的に美味しい
ですね…

毬弥(@yigami)





今回はおにくく合同に参加させていただき
 ありがとうございます！
 実は初めてまともなマンガ描きました。
 あと原稿も初めてでした。
 やりたいこといっぱい詰め込みました。
 めえちゃんは大妖怪だからちよっとぐらい強力な薬
 飲んでも大丈夫です(たぶん)
 服が膨乳とか肥満化に向いてると思うんですよ。
 丈が足りなくなったりびっちり張りついちゃっただけで
 とにかくエロいそのままだもエロいけど
 ああいう変態ムラサと少シアホなめえちゃんの
 ムラめえ増えてください！

まのれあ
 pixiv : 2372691
 twitter : mirei2634



ぼくはおにくくはやっぱり
 熟女的なのが良いですね。
 エイジングはうまみです。
 まったくゆかゆゆは by
 最高だぜいにく。30うー

原稿用紙いっぱいいの
 どたふんおっぱいが描けて
 超楽しかったです！
 水鬼鬼神長を勝手に
 スライムにしちゃって
 ごめんなさい素敵なお合同を
 ありがとうございました！
 りんどろ

できたッおにく合同ッ

思いつきと勢いによって始まった
この合同も、気づけば完成となりました。

今回はむちむちからでっぷり、
膨張に巨根ふたなりと様々な
むっちりおにくを集めてみました。

あなたにピッタリのおにくは
見つかりましたか？

さあ、次の合同は何にするか…

ちん
かわいよ
ちん

Anchors.



あき
スペース



むちむちな
尻肉ってエロいよね！

by
□□



「東方おにく合同」

発行日：第二回博麗神社秋季例大祭 (2015/10/18)

発行者：Anchors

サークル：ハーミット9

印刷：株式会社 日光企画

■著者連絡先：

dipm.mono.eye@gmail.com

PIXIV：

<http://www.pixiv.net/member.php?id=8249062>

Twitter：

@mono_eye_OS

当作品は東方Projectシリーズ(©上海アリス幻楽団/ZUN)の二次創作です。
当作品を無許可でインターネット上にアップロード及び内容を
閲覧・ダウンロード可能な状況にする事を禁じます。

参加者一覧

紅吉

あした

アミーゴ内藤

おるか

かーうち

カスピ海ヨヲグルト

上乃門

仮縫い

守島裕輝

狂華

黒いメガネ

くろうす

黒風ノ空

コロ太助

嫉妬マスク

全知6ヶ月

タク

ドリアン

謎中

奈津みかん

南條つくみ

ねりぞう

パンダイン

風亜ゆう

ぶうた

棒の人

ほんのしるみ

鳴神藤四郎

浪花道またたび

松の芽

まのれあ

毬弥

ゆからんのすけ

lapiness

りんどう

るじうー

ロロ

エナジー

Anchors

総勢39名